

# 第 2 次

## 余市町子どもの読書活動推進計画

(令和 3 年度～令和 7 年度)



余市町教育委員会



# 目 次

## 第1章 計画策定の背景

- 1 子どもの読書の意義 3
- 2 国・北海道の動向 3
- 3 余市町の動向 4

## 第2章 計画の基本的な考え方

- 1 計画の目的 5
- 2 取組みの指針 5
- 3 計画の対象 5
- 4 計画の期間 5

## 第3章 現状と課題

- 1 家庭・地域 6
- 2 保育所（園）・幼稚園 6
- 3 学校 7
- 4 図書館 8

## 第4章 推進目標及び推進項目の具体的な取組み

- 1 子どもを読書好きにするための取組みの推進 9
- 2 子ども読書活動の推進に向けた働きかけ 10
- 3 余市町図書館や学校図書館における図書整備 11
- 4 推進体系図 12

## 資料

### 第2次余市町子どもの読書活動推進計画にかかる読書アンケート

調査集計結果の概要 15

#### 「読書アンケート調査」集計結果

- 小学生（4年生・6年生） 16
- 中学生（2年生） 22
- 高校生 29
- 幼稚園・保育所・保育園保護者用 35
- 学校現場用（図書館教諭）及び幼稚園・保育園・保育所現場用 40
- パブリックコメントで寄せられた意見等に対する考え方 47
- 諮問書 52
- 答申書 53
- 第2次余市町子どもの読書活動推進計画策定経過 54



# 第1章 計画策定の背景

## 1 子どもの読書の意義

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条）です。

しかし、近年のデジタルテクノロジーの急速な進展、情報通信メディアの普及や子どもたちを取巻く社会環境の変化、さらに幼児期からの読書習慣の未形成等を背景とした今日の子どもの読書離れは、ここ数年やや回復傾向にあるものの、依然として憂慮すべき状態にあり、社会全体で子どもの読書活動の一層の推進を図る必要があります。

すべての子どもがそれぞれの成長過程に応じて、自ら読書活動を行うことができるよう、積極的にその環境づくりを進め、未来を担う子どもたちに、本との触れ合いを通し、読書の楽しさを伝えるための施策を計画的に進めることが必要です。

## 2 国・北海道の動向

### (1) 国の動向

平成13年12月に「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」ことを基本理念とした「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。

この法律で、都道府県及び市町村は、「子どもの読書活動推進計画」を策定するよう努めることとされました。

国は、平成14年8月に「第1次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」後、平成30年4月に第4次計画が策定されています。

こうした中、平成26年、学校図書館法の一部改正が行われ、学校司書※1配置が努力義務化され、また、平成28年には文部科学省が、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方を示した「学校図書館ガイドライン」が定められています。

平成29年3月に、新しい小学校及び中学校学習指導要領を告示し、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に活かすことなど、学校図書館に期待される役割が示されています。

※1 学校司書：学校図書館の利用の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員。学校図書館の日常の運営・管理、学校図書館を活用した教育活動の支援を行う。

## (2) 北海道の動向

北海道では、法律に基づき平成15年11月に国の計画を基本として、第1次計画「北海道子どもの読書活動推進計画」後、平成30年3月に第4次計画を策定し、計画に基づき読書普及活動が進められています。

また、全国の市町村における計画の策定率は、令和元年までで80.3%(1,398市町村)、北海道では91%(163市町村)、後志管内では100%(20市町村)となっています。

## 3 余市町の動向

平成3年に後志管内の町村で初の図書館として余市町図書館が開館しました。乳幼児から高齢者まで全世代を対象に地域の情報拠点として資料提供をはじめ各種の活動を続けてきました。

蔵書は、中央公民館図書室から一部引き継いだものも含め、現在11万4千冊、うち児童図書は3万5千冊となりました。

多くの町民に利用されてきましたが、人口減少のなかで、近年は来館者が減少傾向にあります。

平成22年に寄贈された移動図書館用マイクロバスを活用して白岩町、潮見町、豊浜町などの遠隔地への定期的なサービスを実施しています。

さらに、町内小中学校に出向いて図書の貸出を行うなど、図書館サービスを広く提供しています。

学校図書館法に基づき、学級数が12学級以上の学校に必ず置かなければならない司書教諭※2が黒川小学校と大川小学校に配置されています。

また、各学校が、PTAボランティア及びボランティアと図っている連携体制に協力し、授業時間や休み時間を活用した読書活動が実施されています。

平成27年度に子どもの読書環境を守るため、計画期間を平成28年度から平成32年度(令和2年度)までの5か年とする「余市町子どもの読書活動推進計画」を策定いたしました。

令和2年度には、インターネットに接続したパソコン・タブレット端末・スマートフォン等で電子書籍を24時間いつでも、どこでも、好きな時間に検索・貸出・閲覧・返却することが可能な電子図書館の導入を予定しています。

※2 司書教諭：学校図書館の専門的職務を掌るためにおかれる教諭。学校図書館活用の全体計画の作成や教育課程の編成に関する他の教員への助言など、学校図書館を活用した教育活動を企画する。

## 第2章 計画の基本的な考え方

### 1 計画の目的

余市町教育委員会は、平成28年に「余市町子どもの読書活動推進計画」を策定し、計画に基づいてさまざまな取組みを実施してきました。

この成果の分析、課題を受け、社会情勢も踏まえながら、さらなる推進に向けた指針を定め、すべての子どもたちが読書に親しみ、考える力、生きる力を育むために「第2次余市町子どもの読書活動推進計画」を策定します。

また、法律に基づき、国・北海道の計画を踏まえ「第4次余市町総合計画」や「第6次余市町社会教育中期計画」との整合性を図ります。

### 2 取組みの指針

地域の実情を踏まえ、子どもたちの読書活動を推進するため、次の指針を設定します。

- ① 子どもを読書好きにするための取組みの推進<意識の啓発>
- ② 子どもの読書活動の推進に向けた働きかけ<取組みへの支援>
- ③ 余市町図書館や学校図書館における図書整備<環境整備>

### 3 計画の対象

本計画は、0歳からおおむね18歳までを対象とします。

### 4 計画の期間

令和3年4月から令和8年3月までの5年間とします。

## 第3章 現状と課題

### 1 家庭・地域

家庭は、幼い子どもたちが本に触れる初めての場所であり、健やかな成長のための重要な役割を担っている場所でもあります。

図書館では、初めての絵本体験として、平成15年から「余市町ブックスタート事業」を行っています。

これは、地域に生まれた子どもたちが豊かな言葉と心を育ていけるように、本を通して親子で触れあいのひとときを楽しんでもらい、子育て支援の説明と共に、はじめての絵本を手渡す活動です。

余市町子育て・健康推進課と連携して、毎月、ボランティアと共に乳幼児健診（10ヵ月検診）時に行っています。少子化で対象人数が減っているのが残念ですが、この事業は非常に好評を得ています。

今後は、フォローアップの推進を図りながら、地域全体で子育て支援を継続すべきと考えます。

保育所（園）・幼稚園の保護者アンケートでは、家庭において子どもに絵本等を読んでいる割合は多く、1歳までに多くの方が読み聞かせを行っており、前回平成27年調査時より早い年齢で始めていることから、ブックスタート事業での意識啓発の成果ではないかと考えられます。

図書館に行ったことがある人は約4割で、引き続き図書館のPRを続けていく必要性を感じます。

また、多くの家庭で母親が読み聞かせを行っていることが分かることから、乳幼児期からの男性の育児への積極的な参加の機会をより増やしていくための事業も継続実施が適当と感じます。

さらに、スマートフォンをはじめ各世代の電子機器の所持率が大幅に増加していることがわかりました。

電子図書館の導入により、子育て中で来館できなかった方や、これまで本にあまり興味がなかった方にも本に触れる機会が増えるようPRに努めるべきと思います。

家庭において保護者が温かい言葉で読み聞かせを行い、本に親しむことは、楽しい経験として蓄積され、将来にわたり子どもたちの積極的な読書活動の基礎になると考えます。

### 2 保育所（園）・幼稚園

幼児期の子どもたちは、家庭から離れて保育所（園）・幼稚園で先生や友だちと過ごし、さまざまな遊びを通して社会性を身に付け、新たな成長を遂げる大切な時期です。

本町には、現在、保育所（園）が3カ所、幼稚園が3カ所あり、各施設へのアンケート調査によると、すべての施設で毎日読み聞かせを行い、絵本だけではなく発達段階にあわせた図鑑を揃えたり、パネルシアター※3やペープサート※4など工夫を凝らしながら読書活動に取り組んでいることがわかります。

また、全施設で「読み聞かせをすることは非常に大切だと思う」と答えています。

保育所（園）・幼稚園での読み聞かせが、本に親しむ幼児の育成に大きな影響力を与えることが、理解されていると考えます。

今後は、大型絵本・紙芝居などの資料提供を積極的に進めると共に、あらゆる機



会をとらえて、たくさんの本と出会うことができるような活動を引き続き支援し、幅広く保育所（園）・幼稚園と協力・連携していく必要があります。

※3 パネルシアター：パネル布（毛ばだちの良い布）を貼ったボードを舞台に、Pペーパーと呼ばれる不織布で作った絵人形を貼ったり、はがしたり、動かしたりしながら展開する変化が楽しい人形劇。

※4 ペープサート：ペーパー・パペット・シアターを短縮した造語で、紙人形劇。2枚の紙に人形画を描いたものを竹串に貼り合わせて作り、竹串を操作して、表裏二面の絵を返し転画したり、歩かせるように動かしたりすることで、動きのある物語が展開できる。

### 3 学校

学校図書館は、主体的な学習活動を支える情報を提供し、子どもたちの自由な読書活動を推進する重要な役割を担っています。

また、学校における読書は、子どもの豊かな人間形成を促し、自ら学習に取り組む、知識を得る大事な手段です。

多くの小中学生が本を読むのが好きと答えており、本を読むことの楽しさを認識していることがわかります。

全国調査によると、1ヶ月の平均読書冊数は全体的にわずかに増加していますが、一方で、1ヶ月間に全く本を読まない児童・生徒の割合が1割前後存在します。

余市町における1ヶ月間に本を読まない児童・生徒の割合は、小学生、中学生では全国平均を大幅に上回り、高校生は全国平均並みであることから、これらの解消が今後の大きな課題と言えます。

学校図書館担当職員への聞き取りによると、最近の子どもたちは本を選ぶときに映像化された本に興味を示す傾向があり、それを踏まえた上で、子どもの語彙力や読解力を伸ばすための取り組みが必要と思われます。

小・中・高校生のすべてで、スマートフォン等の電子機器の所有率が非常に高くなっていますが、電子書籍を利用している率は低く、アプリゲーム、LINEや動画視聴に使用している割合が高いと思われます。

今後は電子図書館の導入を機会に、電子書籍でいつでも、どこでも読書できる利点を活かしてより関心を深めてもらえるように促したいと考えます。

また、児童・生徒が自らそれぞれ紙媒体や電子媒体による読書を選択して、読むことの楽しさを感じながら興味をもって読書を続けていくことで、集中力や語彙力を高め、読書習慣が定着していくと考えられます。

この5年間で、学校への団体貸出は、数こそ児童数の減少で少なくなっていますが、小学校4校、中学校1校で実施され、着実に子どもたちの身近に本を届ける成果は増えています。

また、全小学校でのブックイベントやブックトーク※5、及び読み聞かせなどの活動が定着して、子どもたちの読書意欲は高まったと感じていますが、今後は中・高校生向けの事業にも取り組んでいく必要があります。

余市町図書館では、学校への読書活動の支援として、図書の団体貸出を継続すると共に、各学校の要望に対しきめ細かく対処していくことが必要と考えます。

併せて、図書館見学や職場体験・インターンシップなどを受け入れると共に、学校図書館担当者との情報交流に努めながら学校との連携・協力をより一層深めていくことが必要です。

※5 ブックトーク：読書意欲を喚起したり、学習への活用を勧めたりするため、特定のテーマに沿った複数の本について、粗筋を説明したり、一部分を朗読したり、挿絵を見せたりするなどして紹介する活動。

## 4 図書館

開館以来、「親しまれる図書館」を目指してさまざまな事業を実施しながら読書活動の普及に努めてきました。

しかし、今回実施したアンケート調査では余市町図書館へ行く割合が小学生5割、中学生4割、高校生1割、保育所（園）・幼稚園の保護者が4割となっています。図書館に対する要望では、本のリクエスト制度を利用してもらえれば解決できるものから、解決が容易でない記述まで、多数ありました。

保育所（園）・幼稚園の保護者からは、騒いだら困るので小さい子を連れて来館することに抵抗があるという記述がいくつか見られました。

今後は、電子図書館を導入することで、教育環境と読書環境の整備を行い、常時利用可能なサービスを提供し、図書館に来訪しづらい利用者へのアプローチを行うことで利便性と住民サービスの向上を図るべきと考えます。

また、親子や各世代の居場所としての図書館を実現するために、赤ちゃん&キッズタイムの拡充など、それに対応した事業を推進するべきと考えます。

魅力ある図書資料と視聴覚資料の整備については、この5年間児童書の貸出数は減少傾向にあるものの、絵本の貸出数が増加していることから、電子図書館の導入にともない、児童書や子育てに関する資料の周知を強化し、利用者の多様なニーズに応えることが重要と考えます。

読書活動に関するボランティア等の活用については、アニメーション※6の研修会を行った成果が見られた反面、ボランティアが円滑に活動するための相談や調整役となるコーディネーターの養成について課題となっています。また、今後はボランティア活動に参加する人たちを新たに増やしていくことが求められます。

子どもたちが読書の楽しさを知り、本に興味を持ち続けるための取組みについては、高い評価を得た絵本作家を招いてのワークショップなど、予定した31事業のうち26項目を実施することができました。

支援を必要とする子どもたちへの働きかけについては、支援学級向けの選書と読み聞かせスキルアップ研修会を行って成果が見られました。今後は、支援を必要とする子どもたちとの直接の交流に努める必要があります。

より多くの子どもたちがたくさんの本と出会い、図書館サービスの一層の充実を図りながら、子どもの読書活動を推進していくことが大切と感じます。

※6 アニメーション：子どもたちに読書の楽しさを伝え、子どもが生まれながらに持っている読む力を引き出そうと開発・体系化した読書指導メソッドです。これらの方法を使い、読書をゲームのように楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション力を育てます。

## 第4章 推進目標及び推進項目の具体的な取組み

### 1 子どもを読書好きにするための取組みの推進

**推進目標** 子どもたち一人ひとりに本への興味を持ってもらい、読書の楽しさを知ってもらう ～「意識の啓発」～

**【子どもたちが読書の楽しさを知るために】**

- ◇家庭では、乳幼児期から絵本や物語に親しみ、豊かな言葉と心を育むために読書の楽しさを伝えていくことが重要です。
- ◇地域では、余市町図書館や子育て・健康推進課などの関係機関、ボランティア団体などが連携し、子どもの発達段階にあわせて、読書と出会うきっかけづくりとなる取組みを行うことが重要です。
- ◇学校では、児童・生徒が本の魅力や読書の楽しさを実感し、進んで本を読もうとする意欲を養うことが重要です。

**推進項目**

- (1) 読書の楽しさを気づかせるための働きかけ
  - ① 子ども向け図書館講座や体験講座の実施
  - ② ブックスタート事業の充実とフォローアップの推進
  - ③ 年齢別オススメ本リストの配布
  - ④ 読書活動推進週間の設定
- (2) 子どもの読書活動に関する理解と関心の働きかけ
  - ① 子ども読書の日（4/23）、こどもの読書週間の啓発
  - ② 子どもの読書活動のための普及事業の実施
  - ③ 読書体験・読書感想文コンクールの実施
- (3) 支援を必要とする子どもたちへの読書活動の働きかけ
  - ① 訪問おはなし会の実施
  - ② しかけ絵本等を活用した子ども交流ひろばの開催
- (4) すべての子どもを本好きにするための働きかけ
  - ① 外国語で楽しむおはなし会など読書活動の実施
  - ② 「朝読」※7「家読」※8など読書活動の啓発
  - ③ おたのしみ会の実施
  - ④ 親子で楽しむワークショップの開催
  - ⑤ 季節に合わせた魅力的な本の展示

※7 朝読（あさどく）：学校等での朝の一斉読書を通して、読書をする習慣を身に付けてもらう取組みのこと。北海道教育委員会では、平成23年度から、北海道「朝読・家読運動」を実施している。

※8 家読（うちどく）：家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという取組みのこと。

## 2 子どもの読書活動の推進に向けた働きかけ

**推進目標** 子どもの読書活動の推進に向けた協力体制を強化する  
～「取組みへの支援」～

【子どもたちの読書活動を推進していくために】

- ◇関係機関、ボランティア団体等が連携・協力し、多様な経験を有する地域の人材を有効に活用しながら、子どもの読書活動の推進を図っていくことが大切です。
- ◇学校・家庭・地域社会がそれぞれ適切な役割分担を果たしながら相互に連携して読書活動を行うことが必要です。

### **推進項目**

- (1) 子どもの読書活動を支援する団体等への組織化の働きかけ
  - ① ボランティアの育成・支援
- (2) 読書活動に関するボランティア等の活用
  - ① ボランティアによる読書推進を目指した講演会・研修会の開催
  - ② ブックトークなど技術的な研修の開催
  - ③ ボランティアと協力した展示やイベントの開催
- (3) 地域による学校の読書活動への支援
  - ① P T A 及びボランティアによる学校図書館への支援

### 3 余市町図書館や学校図書館における図書の整備

**推進目標** 子どもたちが身近に本を感じることができる環境をつくる  
～「環境整備」～

**【子どもたちが身近に本を感じるために】**

- ◇余市町図書館は、子どもたちにとって読書と深く関わるための、きっかけづくりとなる場であり、時代に即したサービスの提供が求められています。
- ◇学校図書館は、読書を通して、生涯学習につながる「生きる力」をはぐくむ場であると共に、子どもたちに生き生きとした学びを支援する場でもあります。
- ◇読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするためのものであり、その普及啓発は大切です。

**推進項目**

- (1) 余市町図書館の環境整備
  - ① 魅力ある図書資料と視聴覚資料の整備
  - ② 電子図書館の利用促進
  - ③ ホームページ、SNS※9を活用した最新情報の提供
  - ④ 読書週間等における事業の実施
  - ⑤ 赤ちゃん&キッズタイム※10の拡充
- (2) 学校図書館の環境整備
  - ① PTA及びボランティアによる学校図書館の環境整備
- (3) 余市町図書館と学校及び学校図書館との連携強化
  - ① 余市町図書館から学校への貸出（団体貸出※11・授業支援貸出※12）
  - ② 放課後児童クラブへの貸出
  - ③ 図書委員会との交流事業
  - ④ 出前図書館の実施
  - ⑤ 学校との緊密な情報交換

※9 SNS：ソーシャルネットワーキングサービスの略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイト（ホームページのサービスを提供しているシステムやサーバ）の会員制サービスのこと。

※10 赤ちゃん&キッズタイム：乳幼児連れの方が、気兼ねなく図書館を利用できるように、お子さんが泣いたり、おしゃべりしたりしてもあたたかく見守りましょうという時間。現在毎週水曜日の10時～12時実施。

※11 団体貸出：学校や団体に対してまとめて図書館資料を貸出すること。

※12 授業支援貸出：授業の内容に沿った本や、授業の中で参考にしたい本を貸出すること。

#### 4 推進体系図

### 余市町総合計画 社会教育中期計画 余市町子どもの読書活動推進計画

#### 【推進目標】 意識の啓発

子どもたち一人ひとりに本への興味を持ってもらい、  
読書の楽しさを知ってもらう

#### 【推進項目】

- ・読書の楽しさを気づかせるための働きかけ
- ・子どもの読書活動に関する理解と関心の働きかけ
- ・支援を必要とする子どもたちへの読書活動の働きかけ
- ・全ての子供を本好きにするための働きかけ

#### 【具体的な取組み】

- 子ども向け図書館講座や体験講座の実施
  ブックスタート事業の充実とフォロー・アップの推進
  年齢別オススメ本リストの配布
  読書活動推進週間の設定
- 子ども読書の日、こどもの読書週間などの啓発
  子どもの読書活動のための普及事業の実施
  読書体験・感想文コンクールの実施
- 訪問おはなし会の実施
  しかけ絵本等を活用した子ども交流ひろばの開催
- 外国語で楽しむおはなし会など読書活動の実施
  「朝読」「家読」などの読書活動の啓発
  おたのしみ会の実施
  親子で楽しむワークショップの開催
  季節に合わせた魅力的な本の展示

#### 【推進目標】 取組みへの支援

子どもの読書活動の推進に向けた協力体制を強化する

#### 【推進項目】

- ・子どもの読書活動を支援する団体等への組織化の働きかけ
- ・読書活動に関するボランティア等の活用
- ・地域による学校の読書活動への支援

#### 【具体的な取組み】

- ボランティアの育成・支援
- ボランティアによる読書推進を旨とした講演会・研修会の開催
  ブックトークなど技術的な研修の開催
  ボランティアと協力した展示やイベントの開催
- PTA及びボランティアによる学校図書館への支援

#### 【推進目標】 環境整備

子どもたちが身近に本を感じることができる環境をつくる

#### 【推進項目】

- ・余市町図書館の環境整備
- ・学校図書館の環境整備
- ・余市町図書館と学校及び学校図書館との連携強化

#### 【具体的な取組み】

- 魅力ある図書資料と視聴覚資料の整備
  電子図書館の利用促進
  ホームページ、SNSを活用した最新情報の提供
  読書週間等における事業の実施
  赤ちゃん＆キッズタイムの拡充
- PTA及びボランティアによる学校図書館の環境整備
- 余市町図書館から学校への貸出
  放課後児童クラブへの貸出
  図書委員会との交流事業
  出前図書館の実施
  学校との緊密な情報交換

# 資料





## 第2次余市町子どもの読書活動推進計画にかかる読書アンケート調査集計結果の概要

### 1. 読書アンケート調査の目的

第2次余市町子どもの読書活動推進計画を策定するにあたり、子どもたちの読書実態の把握や読書に関する興味・関心の度合い、幼児期からの本との関わりや保護者の方の考え方、読書施設の利用状況などを調査して、第1次余市町子どもの読書活動推進計画策定時のアンケート結果と比較し、分析するために実施する。

### 2. 調査対象

- ・ 町内の小学校4年生、6年生及び中学校2年生（小学校4校・中学校3校）
- ・ 町内の高校2年生（高校2校）
- ・ 町内の保育所（園）・幼稚園に通っている子どもの保護者  
（保育所2所・保育園1園・幼稚園3園）

### 3. 実施期間

令和2年7月15日～9月4日

### 4. 回収率

※アンケート配布総数 883人

	小学校4年生	小学校6年生	中学校2年生	高校2年生	保育所（園）・幼稚園保護者
配布数	125人	131人	131人	115人	381世帯
提出数	121人	128人	120人	93人	250世帯
回収率	96.8%	97.7%	91.6%	80.9%	65.6%
	小学生回収率 97.3%				
回収内訳	提出 712人 未提出 171人 回収率 80.6%				

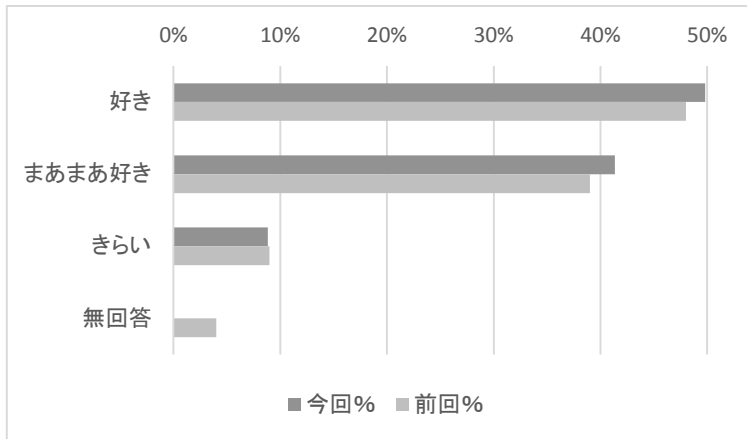
# 「読書アンケート調査」集計結果

## 余市町子どもの読書 アンケート調査 (小学生)

棒グラフの回答は複数回答のため計はアンケート人数より多くなっています。

※前回調査 平成27年実施

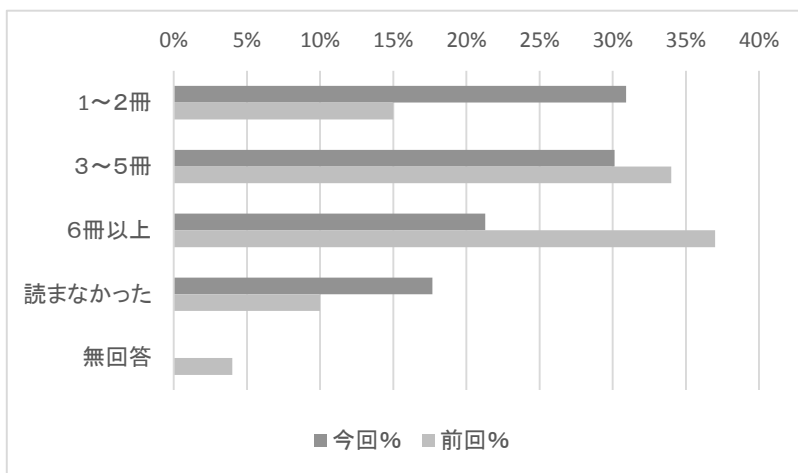
### 問1 あなたは、本を読むのが好きですか



項目	人数	今回%	前回%
好き	124	50%	48%
まあまあ好き	103	41%	39%
嫌い	22	9%	9%
無回答	0	0%	4%

【小学生では「好き」の割合が一番多く（50%）、「まあまあ好き」（41%）と合わせると、91%になる。ほとんどの児童が読書が好きだとわかる。】

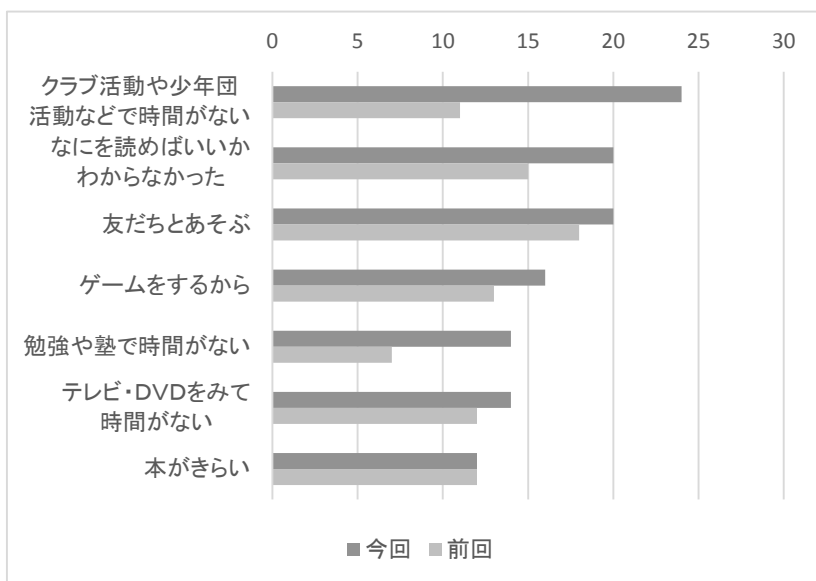
### 問2 この1ヶ月で、なん冊くらい本を読みましたか (教科書・マンガ・雑誌以外で)



項目	人数	今回%	前回%
1~2冊	77	31%	15%
3~5冊	75	30%	34%
6冊以上	53	21%	37%
読まなかった	44	18%	10%
無回答	0	0%	4%

【前回は「6冊以上」と答えた人が一番多かったのに対し、今回は「月に1~2冊」と答えた人が31%で一番多いという結果になった。1ヶ月に本を読まない小学生の割合も前回と比較して増えている。読書離れが進んでいる可能性がある。】

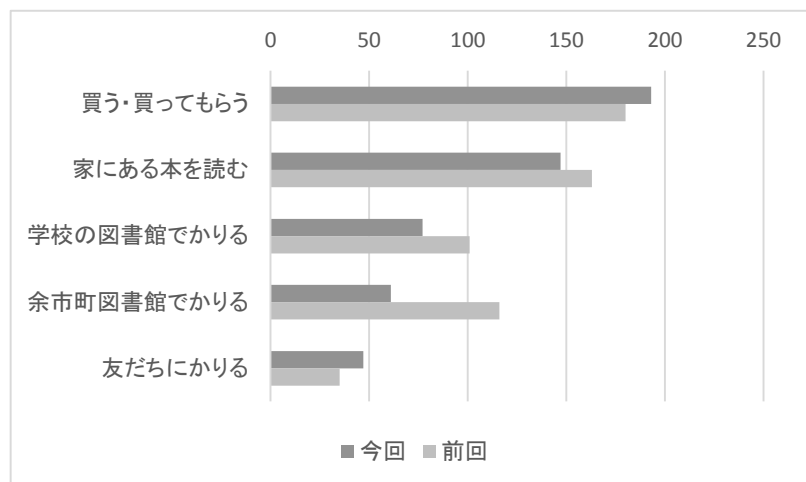
問3 問2で「読まなかった」と答えた人だけにお聞きします  
読まなかったのはなぜですか。(いくつでも)



項目	今回	前回
クラブ活動や少年団活動などで時間がない	24	11
なにを読めばいいかわからなかった	20	15
友だちとあそぶ	20	18
ゲームをするから	16	13
勉強や塾で時間がない	14	7
テレビ・DVDをみて時間がない	14	12
本がきらい	12	12

【読まなかったと答えた子どもの理由として、「ゲームをするから」、「友だちとあそぶ」、「テレビ・DVDをみて時間がない」が多いが、「なにを読めばいいかわからなかった」という理由も多かった。多様な本と出会うためのサポートとして、ブックトークなどのイベントを充実させるべきだと考える。】

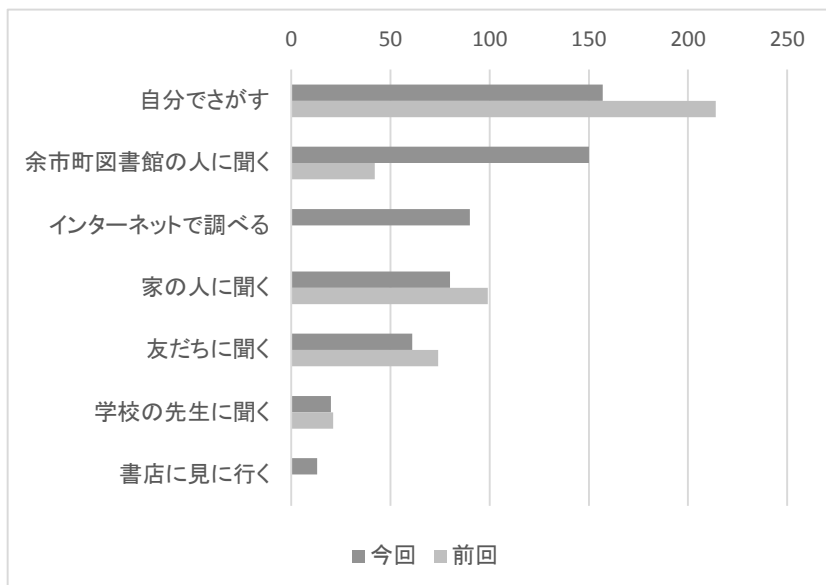
問4 読みたい本はどのように手にいれますか (いくつでも)



項目	今回	前回
買う・買ってもらう	193	180
家にある本を読む	147	163
学校の図書館でかりる	77	101
余市町図書館でかりる	61	116
友だちにかりる	47	35

【入手方法で一番多いのは、「買う・買ってもらう」で、「家にある本を読む」と答えた人も多いが、学校の図書館や余市町図書館でかりる子も少なからずいる。小学校期は、読む冊数も多くなるので、多様な本に触れるために、展示やイベントを充実し、本と出会うサポートを行う必要を感じられる。】

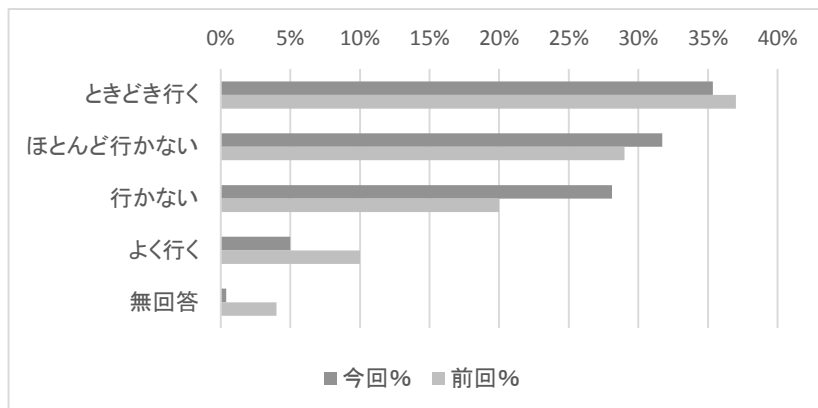
問5 読みたい本をどのようにみつけますか。 (いくつでも)



項目	今回	前回
自分できがす	157	214
余市町図書館の人に聞く	150	42
インターネットで調べる	90	-
家の人に聞く	80	99
友だちに聞く	61	74
学校の先生に聞く	20	21
書店に見に行く	13	-

【多くの子どもたちが、読みたい本を自分できがしている。影響力のある先生や家の人、図書館からのおすすめ本紹介なども大事なことと思われる。】

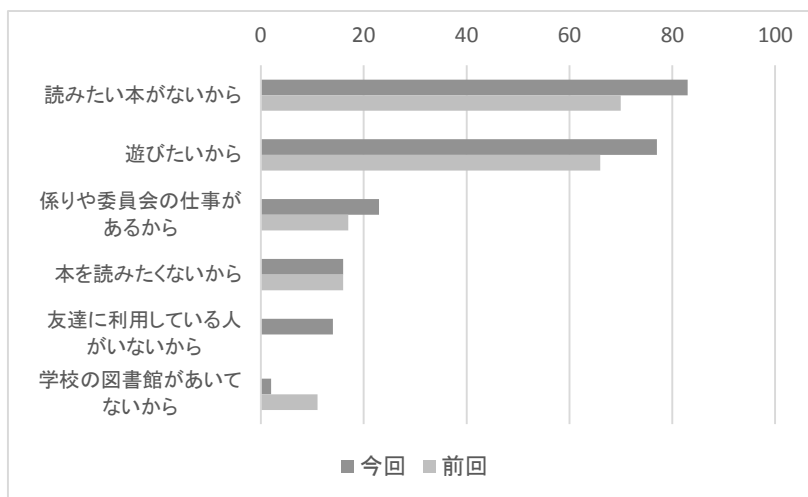
問6 休み時間や放課後に学校の図書館へ行きますか



項目	人数	今回%	前回%
ときどき行く	88	35%	37%
ほとんど行かない	79	32%	29%
行かない	70	28%	20%
よく行く	11	5%	10%
無回答	1	0%	4%

【学校の図書館へは「ほとんど行かない」(32%)「行かない」(28%)をあわせて60%の子どもたちがほとんど利用していない現状にあり、前回より割合が増えている。】

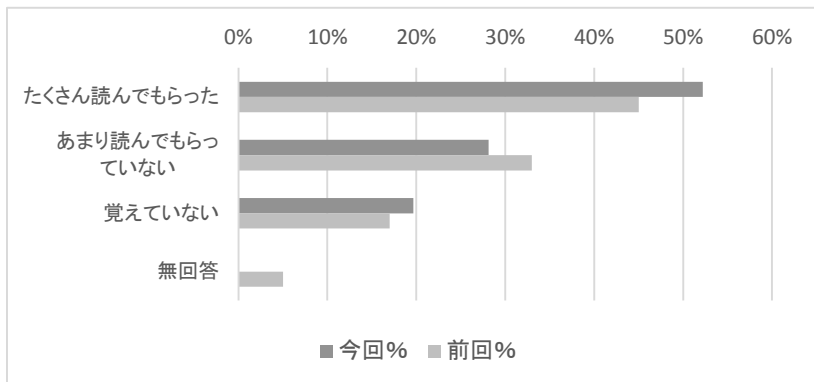
問7 問6で「ほとんど行かない」、「行かない」と答えた人だけにお聞きします。学校の図書館に行かないのはなぜですか。(いくつでも)



項目	今回	前回
読みたい本がないから	83	70
遊びたいから	77	66
係りや委員会の仕事があるから	23	17
本を読みたくないから	16	16
友達に利用している人がいないから	14	-
学校の図書館がないから	2	11

【学校の図書館を利用しない主な理由は、「読みたい本がないから」と答えている子が最も多い。しかし、リクエスト制度を取り入れている小学校も多かったため、図書館に足を運ばせるための工夫が必要と感じられる。】

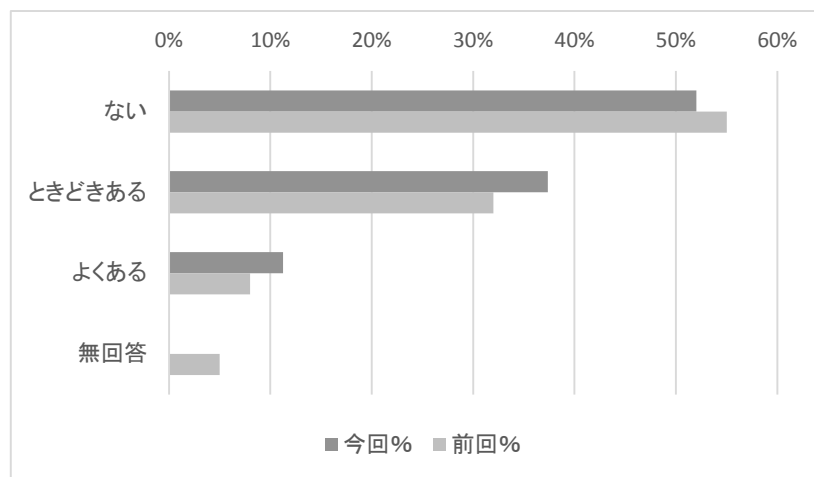
問8 絵本の読み聞かせなどをしてもらったことはありますか



項目	人数	今回%	前回%
たくさん読んでもらった	130	52%	45%
あまり読んでもらっていない	70	28%	33%
覚えていない	49	20%	17%
無回答	0	0%	5%

【絵本の読み聞かせをしてもらった経験では、「たくさん読んでもらった」が52%と半分以上おり、読み聞かせが定着していることがわかる。】

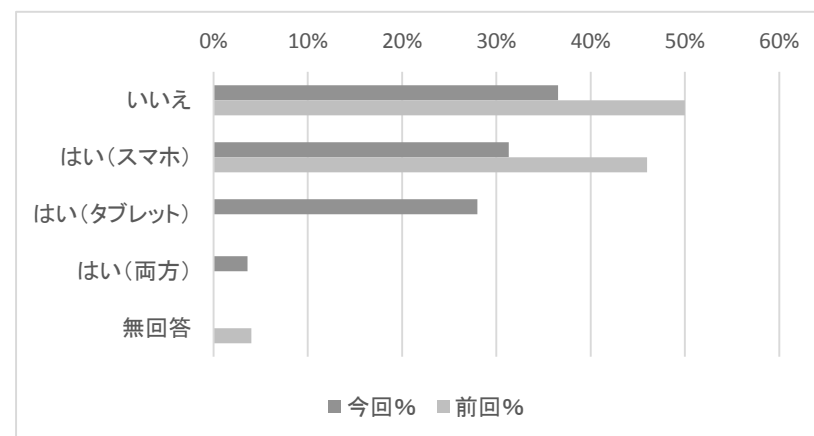
問9 家族で本について話題になることはありますか



項目	人数	今回%	前回%
ない	128	52%	55%
ときどきある	93	37%	32%
よくある	28	11%	8%
無回答	0	0%	5%

【家で本について話題になることは52%が「ない」と回答している。】

問10 スマートフォンやタブレットを持っていますか

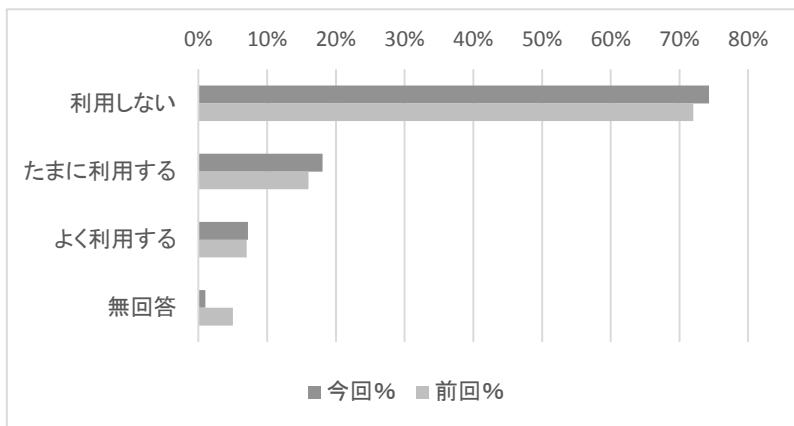


項目	人数	今回%	前回%
いいえ	91	37%	50%
はい(スマホ)	78	31%	46%
はい(タブレット)	71	28%	-
はい(両方)	9	4%	-
無回答	0	0%	4%

※スマホの前回%は携帯とスマホの合計

【スマートフォンの所持率は小学生で31%。タブレットとあわせると率は63%になり、前回より大幅に増加している。スマートフォン、タブレットがかなり定着してきていることがわかる。】

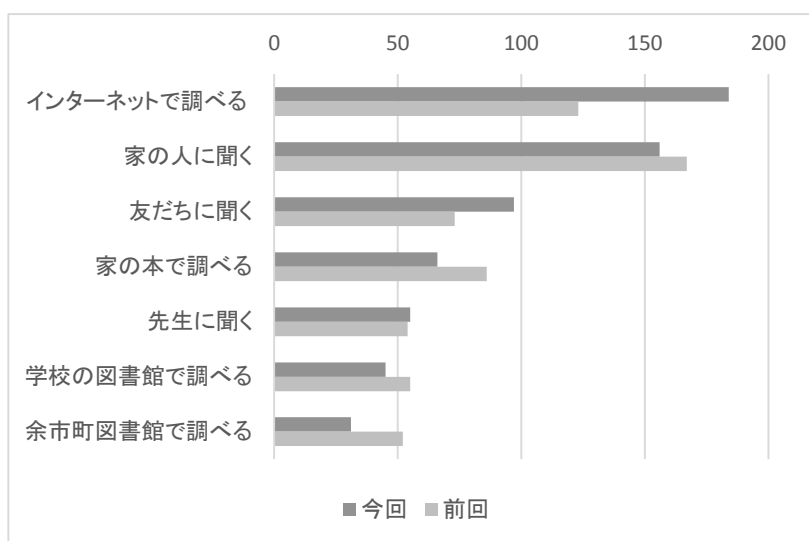
問 1 1 電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか



項目	人数	今回%	前回%
利用しない	185	74%	72%
たまに利用する	45	18%	16%
よく利用する	18	7%	7%
無回答	1	1%	5%

【小学生の25%が電子書籍を何らかの形で利用しており、前回とあまり変化は見られない。】

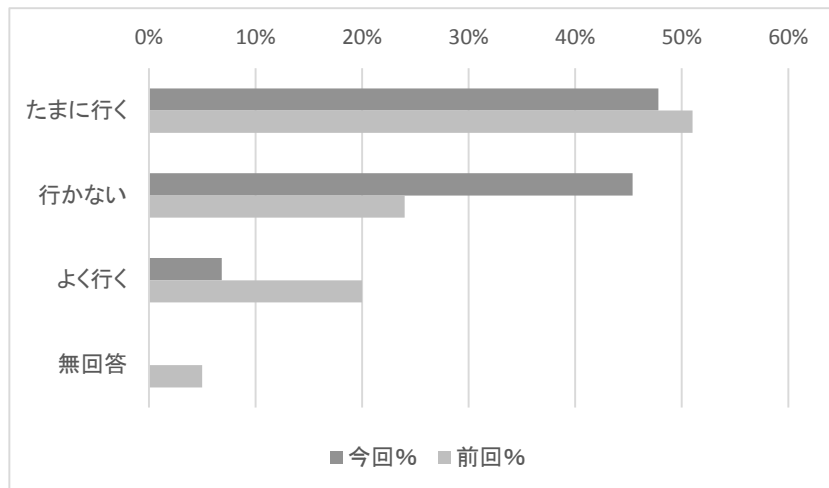
問 1 2 知りたいことがあるとき、どうやって調べますか (いくつでも)



項目	今回	前回
インターネットで調べる	184	123
家の人に聞く	156	167
友だちに聞く	97	73
家の本で調べる	66	86
先生に聞く	55	54
学校の図書館で調べる	45	55
余市町図書館で調べる	31	52

【調べものを解決するとき、前回は「家の人に聞く」が一番多かったが、今回は「インターネットで調べる」が多くなっている。】

### 問 1 3 余市町図書館へはよく行きますか



項目	人数	今回%	前回%
たまに行く	119	48%	51%
行かない	113	45%	24%
よく行く	17	7%	20%
無回答	0	0%	5%

【小学生の55%（「よく行く」7%、「たまに行く」48%）が図書館を利用。前回より割合は減っている。小学生向けの展示やイベントを行うなど、図書館利用を促す工夫が必要と感じられる。】

### 問 1 4 図書館にあったらいいと思うものはなんですか

（自由に書いてください）

#### <余市町図書館についての自由記述の一部>

- ・「鬼滅の刃」など、人気のあるマンガ・アニメの本や怖い本を置いて欲しい
- ・自分の年齢に合ったおすすめの本のコーナーをつかってほしい
- ・読みたい本の場所に連れて行ってくれる機械がほしい
- ・読みたい本がすぐに見つけれられるサービスが欲しい
- ・フリーWi-Fiをつけてほしい
- ・さがしたい本が機械からでてくるようにして欲しい
- ・飲み物がほしい
- ・本のレビューや、同じ本を読んだ人のオススメ本が見たい

小学生の自由記述には、大きく分けて3つの要望がありました。

1つは、蔵書に関する要望です。漫画本や、アニメの本を入れて欲しいという要望が多くありました。これについては、すでに蔵書があるものも多くありましたが、ない本に関してはリクエスト制度を活用することで解決でき、図書館のPRが必要と感じました。また、人気ランキングや、本のレビュー、同じ本を読んだ人のオススメ本が知りたいとの要望もありました。

次に、自分が求めている本の場所が分かる機械が欲しいという要望です。本の場所を探しづらい、聞きづらいことが分かりました。

さらに、施設に関する要望がありました。話しても良いスペースや、フリーWi-Fiを求める声が多くありました。

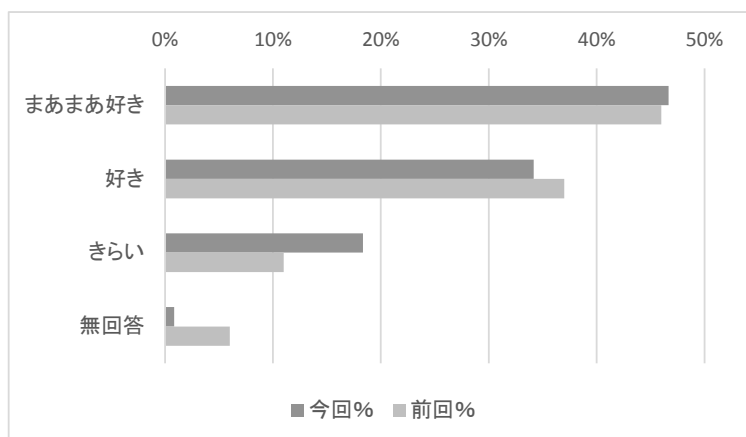
このアンケートから、読みたい本はあるけれど、図書館にきて確認するまではしないこと、リクエスト制度の周知が足りないことが分かりました。

## 「読書アンケート調査」集計結果

### 余市町 子どもの読書 アンケート調査 (中学生)

棒グラフの回答は複数回答のため計はアンケート人数より多くなっています。

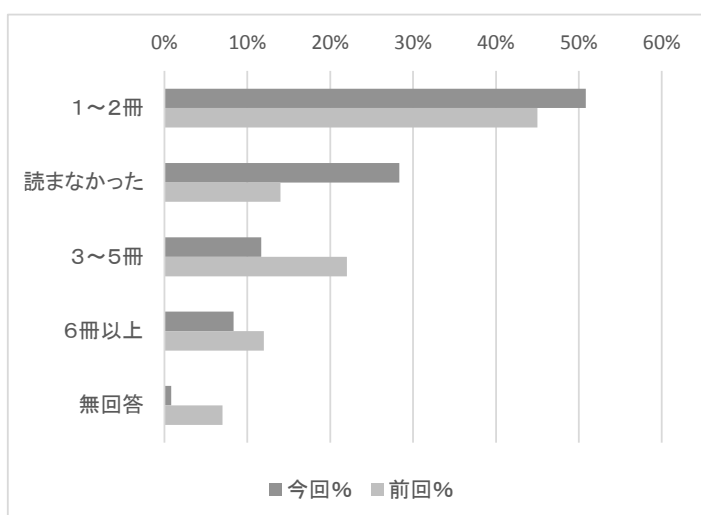
#### 問1 あなたは、本を読むのが好きですか



項目	人数	今回%	前回%
まあまあ好き	56	47%	46%
好き	41	34%	37%
きらい	22	18%	11%
無回答	1	1%	6%

【全体の81%が本は比較的好きだと回答している。前回とそれほど変わらない。】

#### 問2 この1ヶ月で、なん冊くらい本を読みましたか (教科書・マンガ・雑誌以外で)

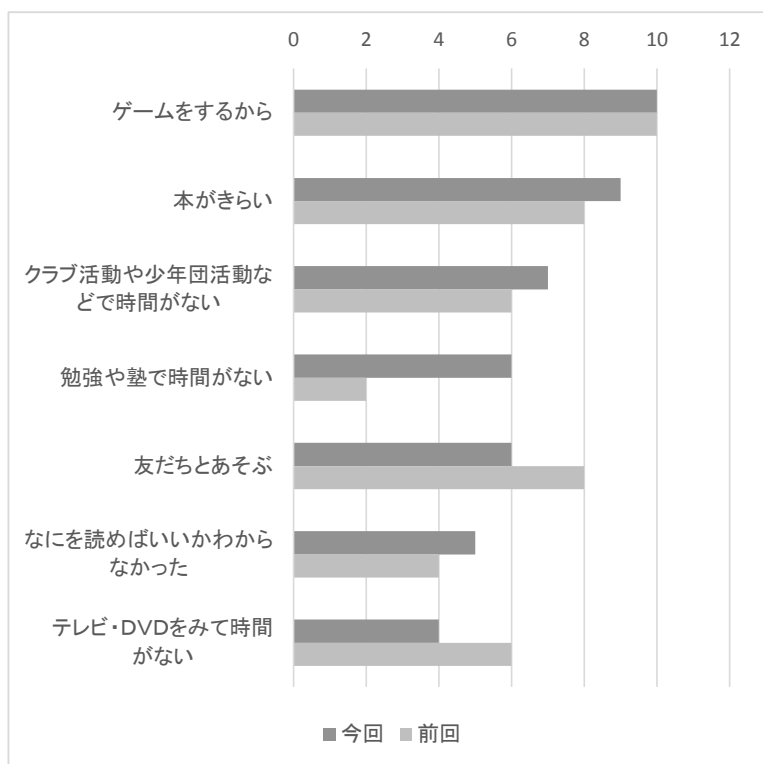


項目	人数	今回%	前回%
1~2冊	61	51%	45%
読まなかった	34	28%	14%
3~5冊	14	12%	22%
6冊以上	10	8%	12%
無回答	1	1%	7%

【1ヶ月で読んだ本の割合は「1~2冊」が51%で一番多く「3~5冊」が12%。「6冊以上」読書する割合は8%である。1ヶ月に本を全く読まなかった生徒の割合は28%であり、全国調査の第65回学校読書調査で発表されている12.5%の倍となっている。】



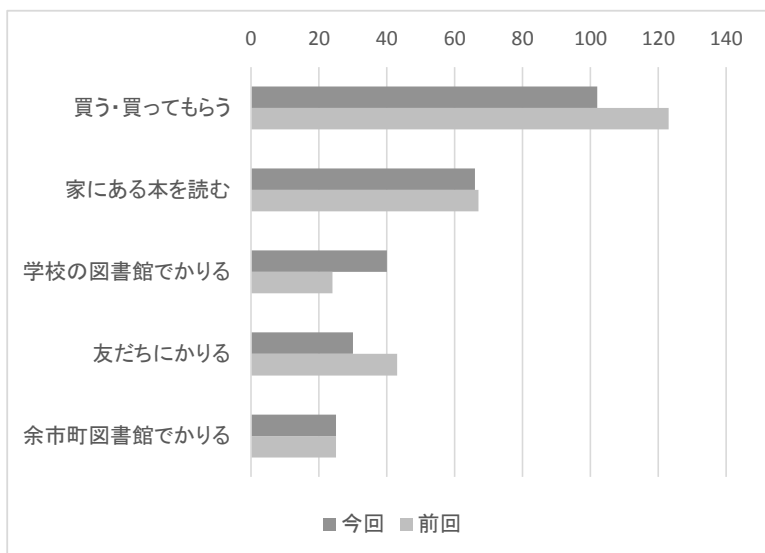
問3 問2で「読まなかった」と答えた人だけにお聞きします  
読まなかったのはなぜですか。(いくつでも)



項目	今回	前回
ゲームをするから	10	10
本がきれい	9	8
クラブ活動や少年団活動などで時間がない	7	6
勉強や塾で時間がない	6	2
友だちとあそぶ	6	8
なにを読めばいいかわからなかった	5	4
テレビ・DVDをみて時間がない	4	6

【読まなかった生徒の多くは、「ゲームをするから」と答えているが、友達と遊んだり、勉強や塾やクラブ活動で時間がないなど読書時間がとれない、という意見もある。また「本がきれい」と答えた人も前回と同じような数となっている。SNSを活用するなど、本を読まない生徒に対するアプローチが必要と考えられる。】

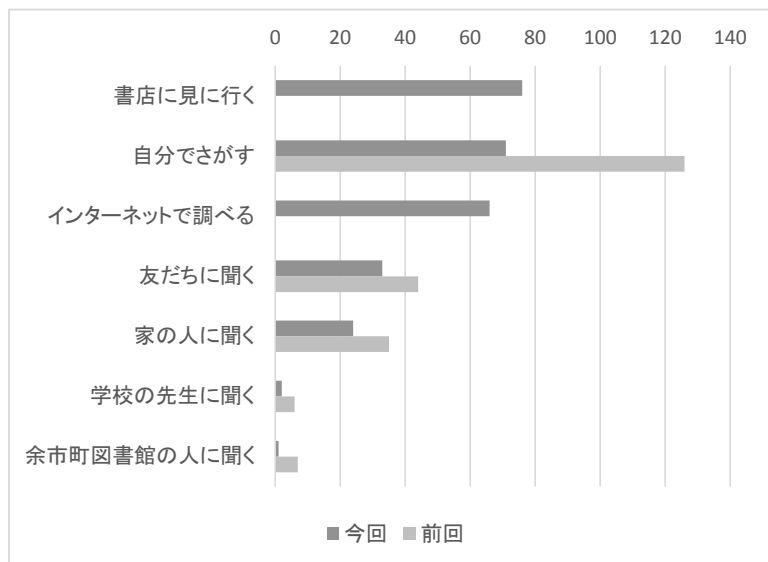
問4 読みたい本はどのように手にいれますか (いくつでも)



項目	今回	前回
買う・買ってもらう	102	123
家にある本を読む	66	67
学校の図書館でかりる	40	24
友だちにかりる	30	43
余市町図書館でかりる	25	25

【読みたい本の入手方法は、「買う・買ってもらう」と答えた生徒が圧倒的に多く、次に多いのが「家にある本を読む」となっている。これは前回と変わらない。】

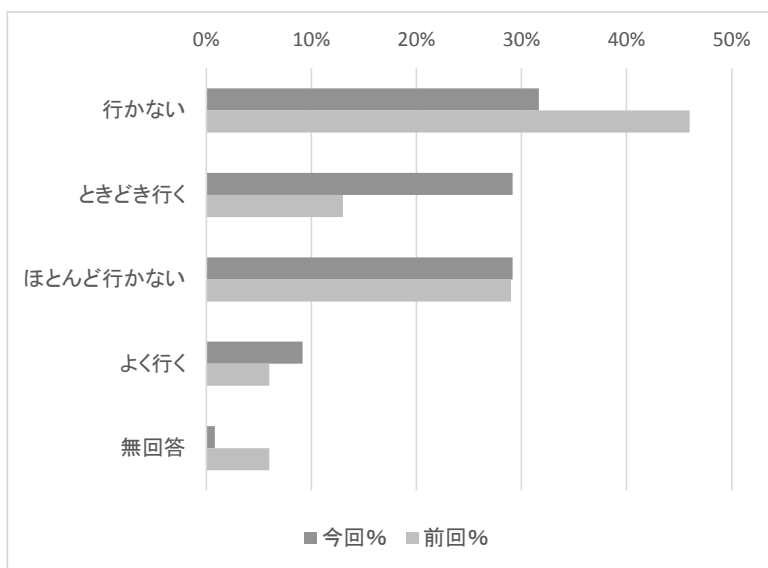
問5 読みたい本をどのようにみつけますか。(いくつでも)



項目	今回	前回
書店に見に行く	76	-
自分でさがす	71	126
インターネットで調べる	66	-
友だちに聞く	33	44
家の人に聞く	24	35
学校の先生に聞く	2	6
余市町図書館の人に聞く	1	7

【読みたい本は「書店に見に行く」や「自分でさがす」生徒が多い。表紙や厚さを実際に見て決めることが多いようだ。次に「インターネットで調べる」が多い。前回に比べて自分で調べる傾向が強くなったことを示している。より多様な本と出会うためには、本の展示以外にも、ブックトークを行うなどの工夫が必要だと考える。】

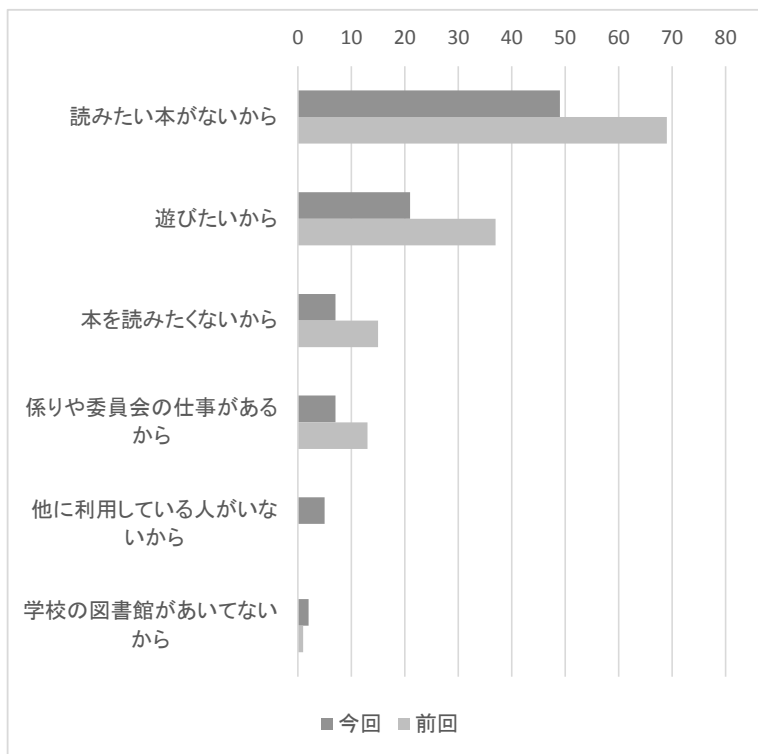
問6 休み時間や放課後に学校の図書館へ行きますか



項目	人数	今回%	前回%
行かない	38	32%	46%
ときどき行く	35	29%	13%
ほとんど行かない	35	29%	29%
よく行く	11	9%	6%
無回答	1	1%	6%

【「行かない」と回答した生徒が32%「ほとんど行かない」を合わせて61%となり、前回より割合は減ったが、学校の図書館を使っていない状況である。】

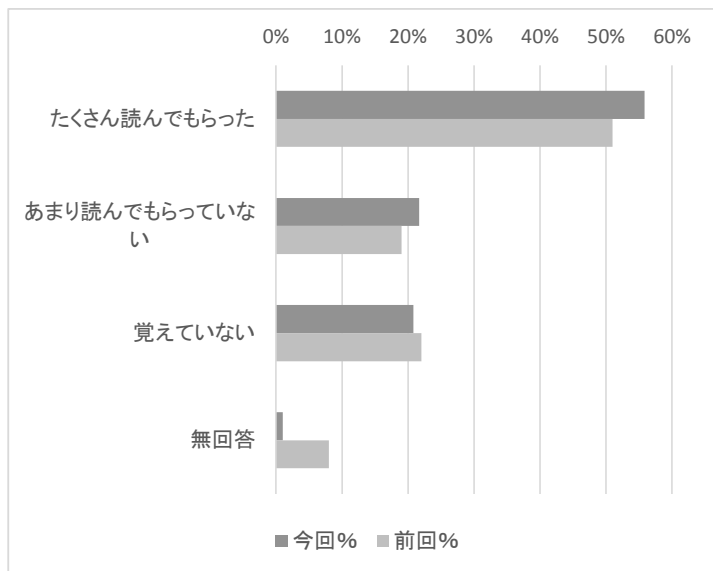
問7 問6で「ほとんど行かない」、「行かない」と答えた人だけにお聞きします。学校の図書館に行かないのはなぜですか。(いくつでも)



項目	今回	前回
読みたい本がないから	49	69
遊びたいから	21	37
本を読みたくないから	7	15
係りや委員会の仕事があるから	7	13
他に利用している人がいないから	5	-
学校の図書館があいてないから	2	1

【行かない理由として「読みたい本がないから」が最も多くあげられているため、学校図書館の利用率を上げるために、生徒の年代のニーズに合わせた選本が必要と考える。】

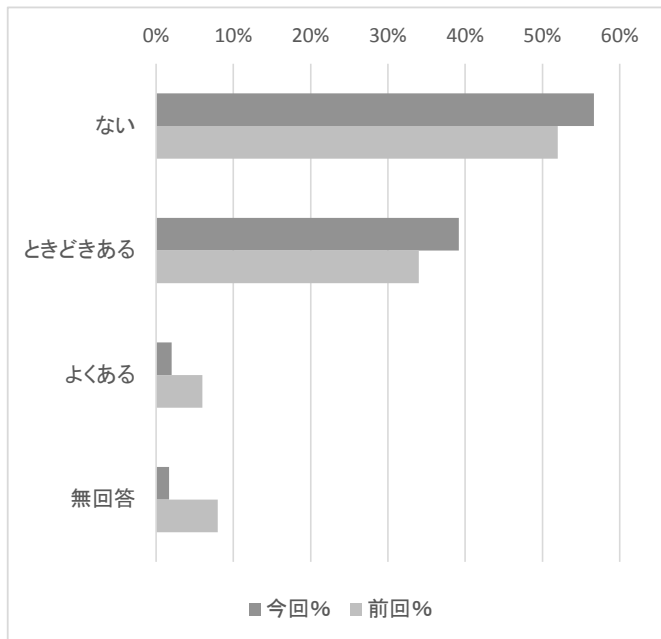
問8 小さいころ、絵本の読み聞かせなどをしてもらったことはありますか



項目	人数	今回%	前回%
たくさん読んでもらった	67	56%	51%
あまり読んでもらっていない	26	22%	19%
覚えていない	25	21%	22%
無回答	2	1%	8%

【56%の生徒が、幼い頃から読み聞かせをしてもらったことを記憶している。前回より割合は5%ほど増えている。】

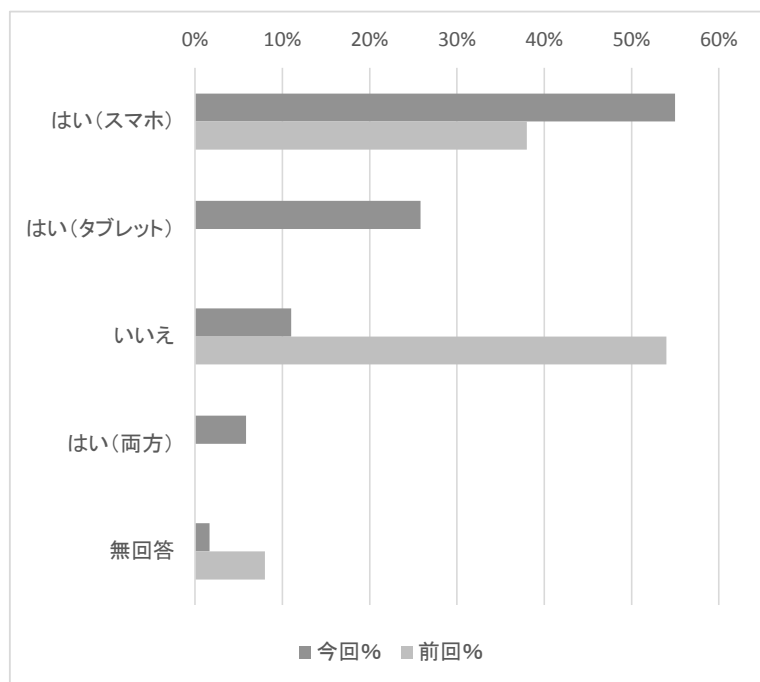
問9 家族で本について話題になることはありますか



項目	人数	今回%	前回%
ない	68	57%	52%
ときどきある	47	39%	34%
よくある	3	2%	6%
無回答	2	2%	8%

【本について家族で話題になることは「よくある」(2%)「ときどきある」(39%)を合わせて41%であり前回と変わらない。】

問10 スマートフォンやタブレットを持っていますか

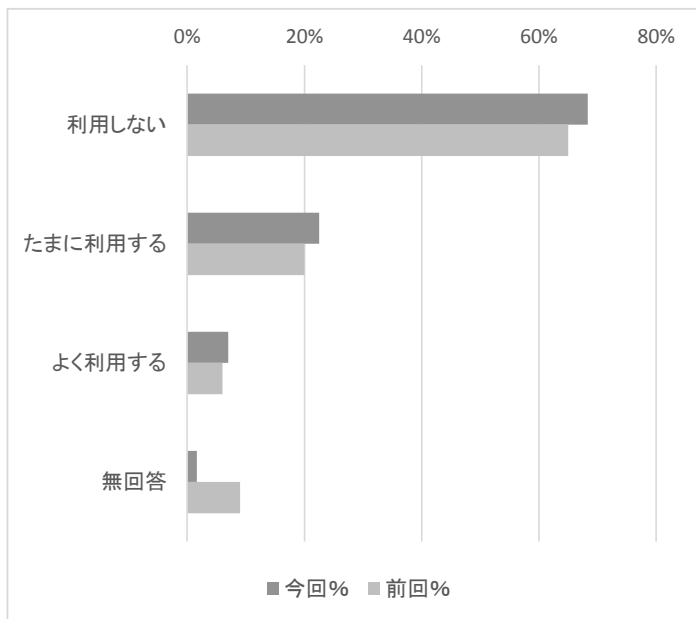


項目	人数	今回%	前回%
はい(スマホ)	66	55%	38%
はい(タブレット)	31	26%	-
いいえ	14	11%	54%
はい(両方)	7	6%	-
無回答	2	2%	8%

※スマホの前回%は携帯とスマホの合計

【スマートフォンを所持しているのは55%。タブレットは26%で、全体の87%が電子機器を所持していることが分かる。前回と比べ、大幅に増加している。】

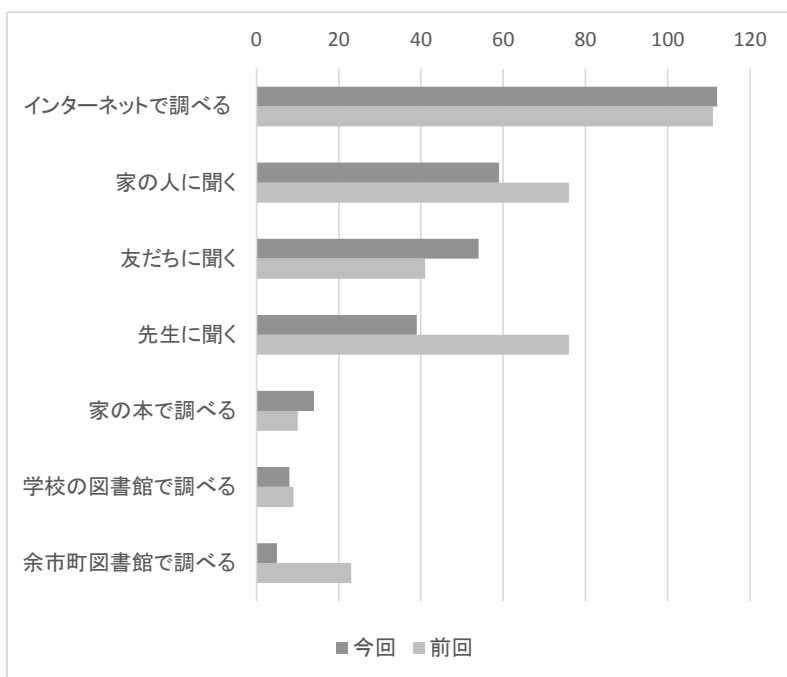
問 1 1 電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか



項目	人数	今回%	前回%
利用しない	82	68%	65%
たまに利用する	27	23%	20%
よく利用する	9	7%	6%
無回答	2	2%	9%

【電子書籍の利用については、「よく利用する」（7%）「たまに利用する」（23%）を合わせて30%で、割合は若干増えている。しかし、スマートフォンやタブレットの所持率の増加に対して、電子書籍等の利用率があまり増加していないことから、中学生にとって電子書籍はあまり一般的ではないことが分かる。電子図書館の導入に伴い、電子書籍についての周知も充実させることが必要と考えられる。】

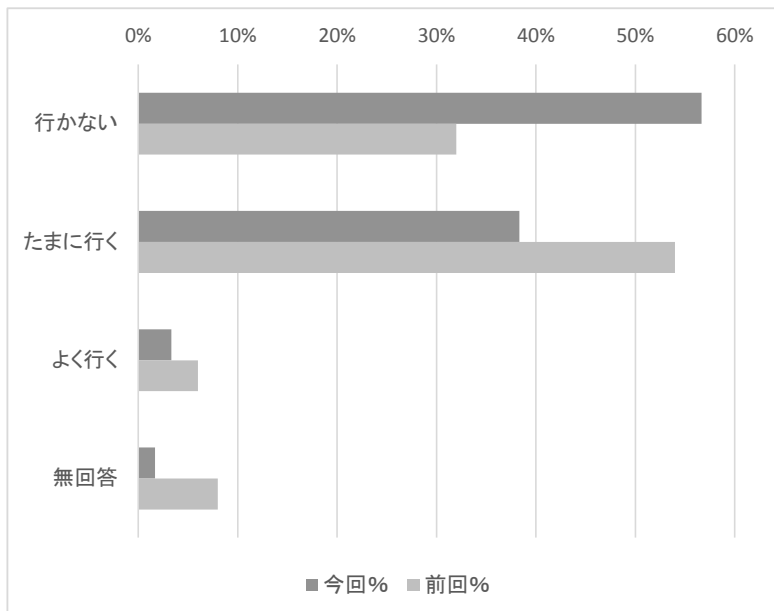
問 1 2 知りたいことがあるとき、どうやって調べますか（いくつでも）



項目	今回	前回
インターネットで調べる	112	111
家の人に聞く	59	76
友だちに聞く	54	41
先生に聞く	39	76
家の本で調べる	14	10
学校の図書館で調べる	8	9
余市町図書館で調べる	5	23

【疑問の解決法として中学生は、「インターネットで調べる」が圧倒的に多く、次に「家の人に聞く」「友だちに聞く」の割合が高い。前回と同じようにインターネットで調べる割合が高い。】

### 問 1 3 余市町図書館へはよく行きますか



項目	人数	今回%	前回%
行かない	68	57%	32%
たまに行く	46	38%	54%
よく行く	4	3%	6%
無回答	2	2%	8%

【余市町図書館については、「よく行く」は3%、「たまに行く」は38%と、前回より大幅に減っているが、現段階で「よく行く」と答える生徒が少なくても、部活や塾などで多忙な中、何らかの形で利用している生徒が半数近くはいることが分かったため、この利用経験が今後の図書館利用につながることを考えられる。】

### 問 1 4 図書館にあったらいいと思うものはなんですか

(自由に書いてください)

#### <余市町図書館についての自由記述の一部>

- ・ 自習スペースや、勉強ができる場所が欲しい
- ・ 勉強に使えるようなドリルが欲しい
- ・ マンガ、ライトノベルや怖い本が欲しい
- ・ カフェやウォーターサーバーをつかって欲しい
- ・ オススメの本を探してくれる人が欲しい

中学生からは、「水が飲める場所が欲しい」、「フリーWi-Fiが欲しい」、「自由に使えるパソコンが欲しい」、「エアコンが欲しい」など、施設面に関する要望が多くありました。

「自由に本を読んだりゲームができる部屋」や、「自習室」を求める声も上がっています。

その他、「マンガを置いて欲しい」、「ゴミ箱を置いて欲しい」、「コンセントを使えるようにして欲しい」などの要望がありました。

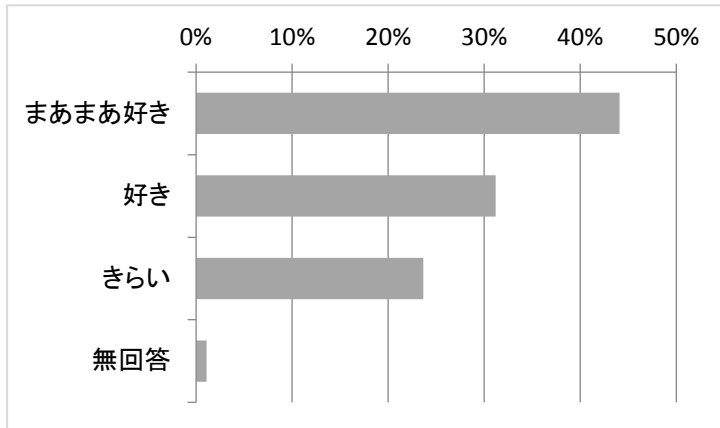
中学生は、図書館に、「静かに本が読める場所」としての機能の他に、「勉強やパソコンでの作業が快適にできる場所」としての機能も求めていることが分かりました。

## 「読書アンケート調査」集計結果

### 余市町子どもの読書 アンケート調査 (高校生)

- ・棒グラフの回答は複数回答のため計はアンケート人数より多くなっています。
- ・高校生は前回調査していないため前回の値が記載されておりません。

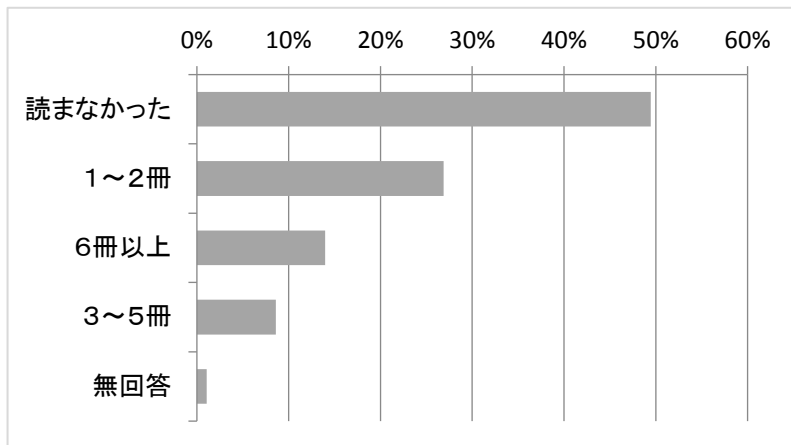
#### 問1 あなたは、本を読むのが好きですか



項目	人数	%
まあまあ好き	41	44%
好き	29	31%
きらい	22	24%
無回答	1	1%

【全体の75%が本は比較的好きだと回答している。】

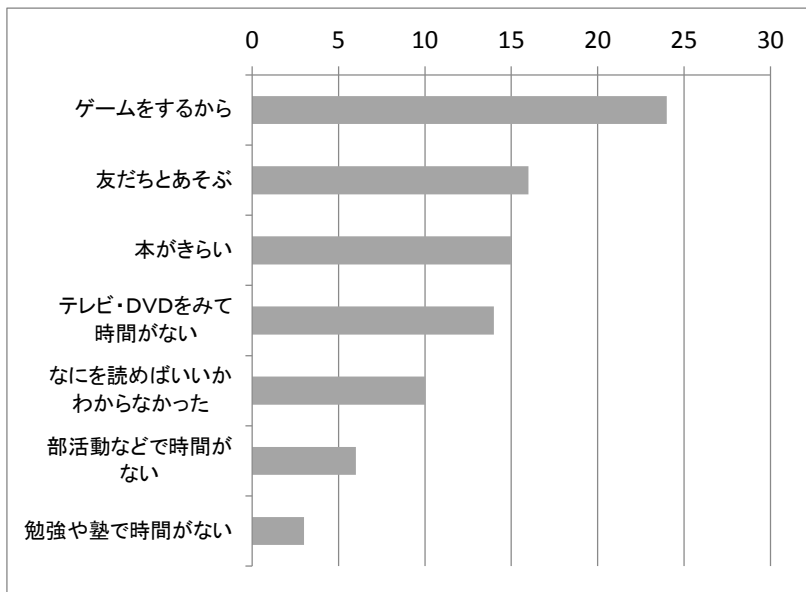
#### 問2 この1ヶ月で、なん冊くらい本を読みましたか (教科書・マンガ・雑誌以外で)



項目	人数	%
読まなかった	46	49%
1~2冊	25	27%
6冊以上	13	14%
3~5冊	8	9%
無回答	1	1%

【1ヶ月で読んだ本の割合は「読まなかった」が一番多く、49%と半分近くの生徒が1ヶ月間に1冊も本を読まなかったことが分かる。次に多いのが「1~2冊」、次に「6冊以上」となっている。第65回学校読書調査による1ヶ月に本を読まない生徒の割合と比較すると下回っている。】

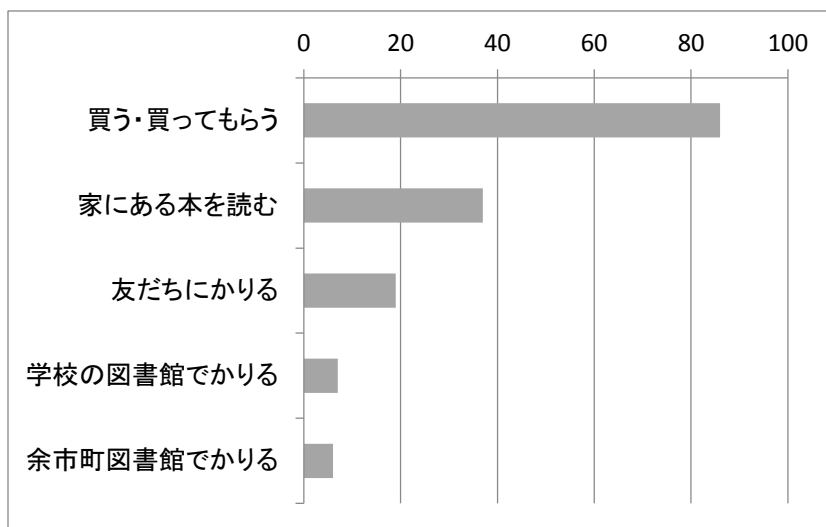
問3 問2で「読まなかった」と答えた人だけにお聞きします  
読まなかったのはなぜですか。(いくつでも)



項目	今回
ゲームをするから	24
友だちとあそぶ	16
本がきれい	15
テレビ・DVDをみて時間がない	14
なにを読めばいいかわからなかった	10
部活動などで時間がない	6
勉強や塾で時間がない	3

【読まなかった生徒の多くは、「友だちとあそぶ」と「テレビ・DVDをみて時間がない」など、読書時間がとれないと答えているが、中でも「ゲームをするから」の割合が高く、スマートフォンが普及したことで、より読書時間が減少していると考えられる。また、「本がきれい」との回答も多いことから、本に触れる機会をつくることが課題である。】

問4 読みたい本はどのように手にいれますか (いくつでも)

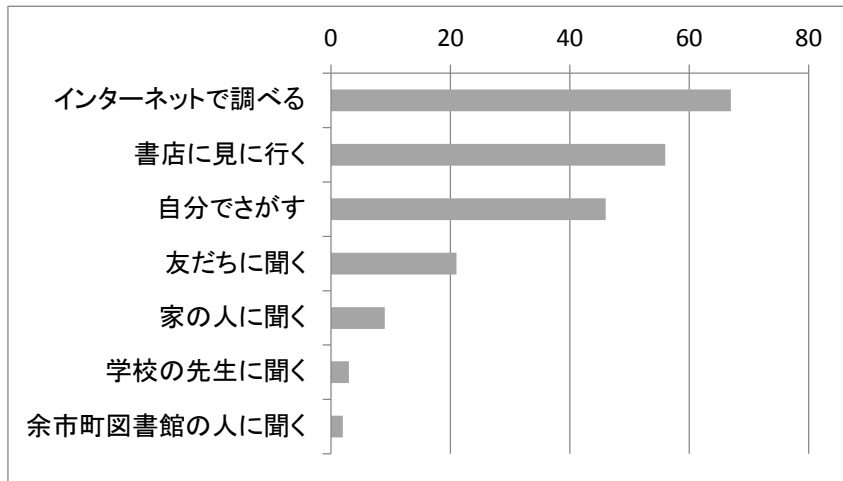


項目	今回
買う・買ってもらう	86
家にある本を読む	37
友だちにかりる	19
学校の図書館でかりる	7
余市町図書館でかりる	6

【読みたい本の入手方法は、「買う・買ってもらう」と答えた生徒が圧倒的に多く、次に多いのが、「家にある本を読む」となっている。図書館でかりると答えた生徒がかなり少なかったことから、高校生へ図書館のPRをすることが必要だと考える。】



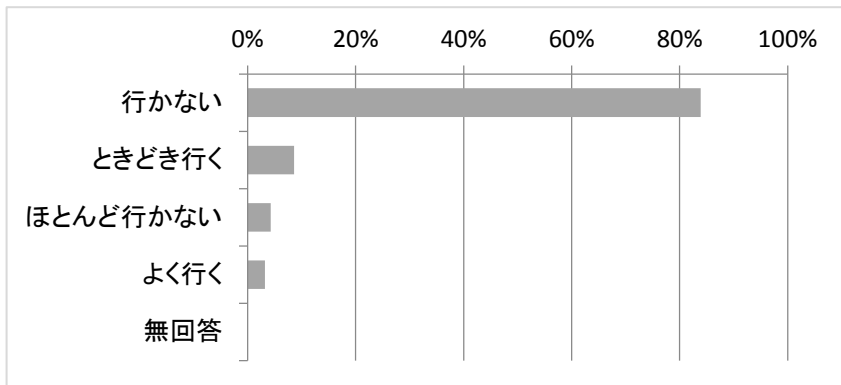
問5 読みたい本をどのようにみつけますか。(いくつでも)



項目	今回
インターネットで調べる	67
書店に見に行く	56
自分でさがす	46
友だちに聞く	21
家の人に聞く	9
学校の先生に聞く	3
余市町図書館の人に聞く	2

【読みたい本は「インターネットで調べる」が多く、インターネット上の影響が大きいことがわかる。次に多いのは「書店に見に行く」である。新しい本を見つける機会が多いが、古い名作などに触れる機会は少なくなることが予想されるので、もっと多くの種類の本に触れる事業等の実施が必要と考える。】

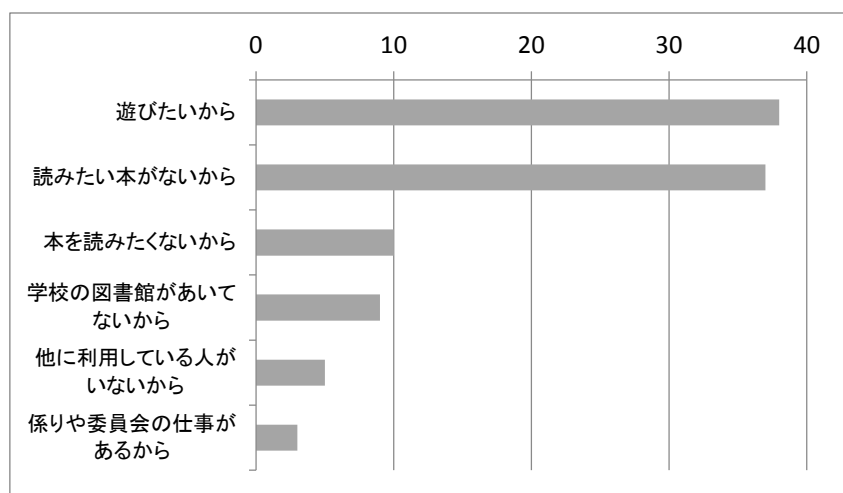
問6 休み時間や放課後に学校の図書館へ行きますか



項目	人数	%
行かない	78	84%
ときどき行く	8	9%
ほとんど行かない	4	4%
よく行く	3	3%
無回答	0	0%

【「行かない」と回答した生徒が84%。「ほとんど行かない」、と合わせると88%となり、学校の図書館をほとんどの生徒が使っていない状況である。】

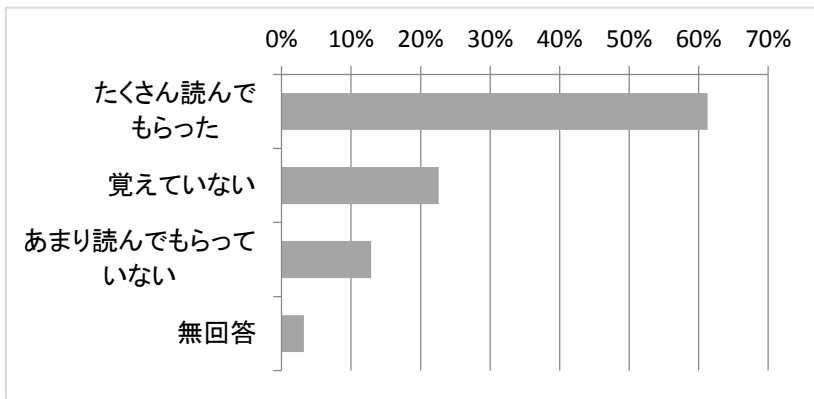
問7 問6で「ほとんど行かない」、「行かない」と答えた人だけにお聞きします。学校の図書館に行かないのはなぜですか。(いくつでも)



項目	今回
遊びたいから	38
読みたい本がないから	37
本を読みたくないから	10
学校の図書館があいてないから	9
他に利用している人がいないから	5
係りや委員会の仕事があるから	3

【問6の行かない理由として「遊びたいから」、「読みたい本がないから」があげられている。中学生のアンケート結果と比較して、「読みたい本がないから」と答えた生徒が増えていることから、学校の図書館の利用率を上げるために、生徒の年代のニーズに合わせた選本が必要と考える。】

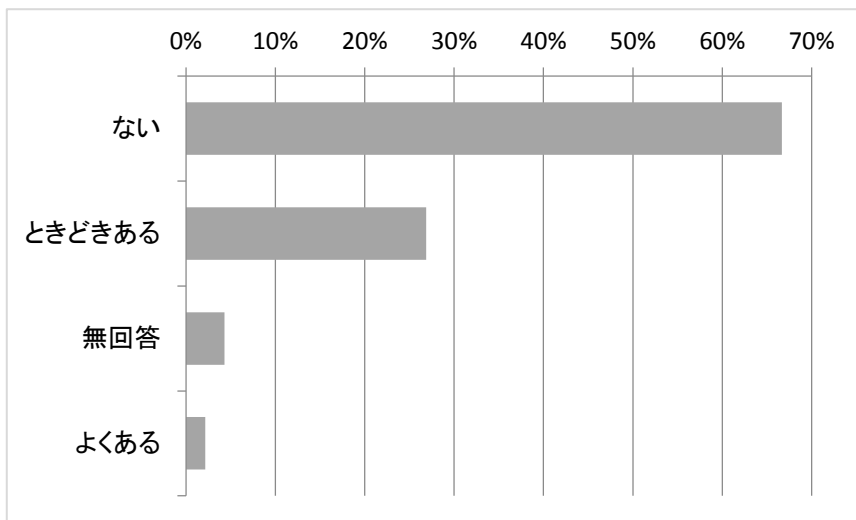
問8 小さいころ、絵本の読み聞かせなどをしてもらったことはありますか



項目	人数	%
たくさん読んでもらった	57	61%
覚えていない	21	23%
あまり読んでもらっていない	12	13%
無回答	3	3%

【61%の生徒が、幼い頃から読み聞かせをしてもらったことを記憶している。読み聞かせが良い思い出として記憶されているようである。】

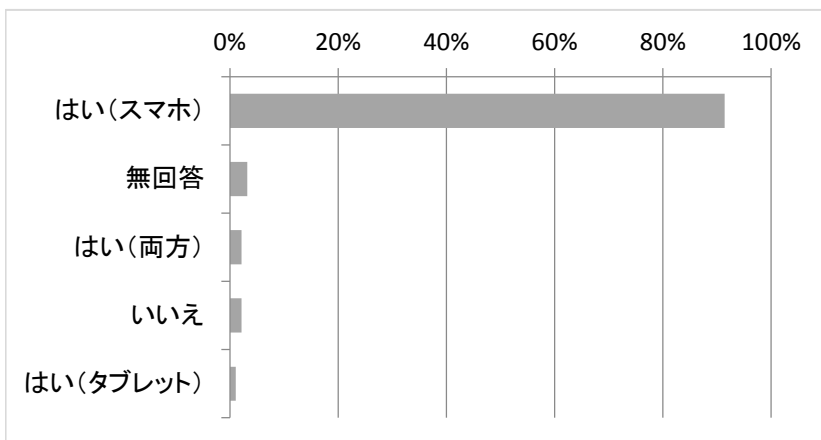
問9 家族で本について話題になることはありますか



項目	人数	%
ない	62	67%
ときどきある	25	27%
よくある	2	2%
無回答	4	4%

【本について家族で話題になることは「ない」が半分以上をしめている。】

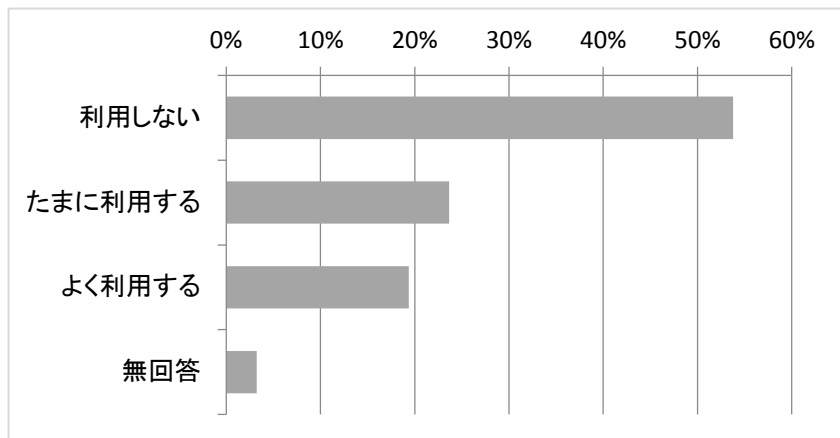
問10 スマートフォンやタブレットを持っていますか



項目	人数	%
はい(スマホ)	85	91%
はい(両方)	2	2%
はい(タブレット)	1	1%
いいえ	2	2%
無回答	3	3%

【スマートフォンを所持しているのは91%で、ほとんどの生徒が所持している。】

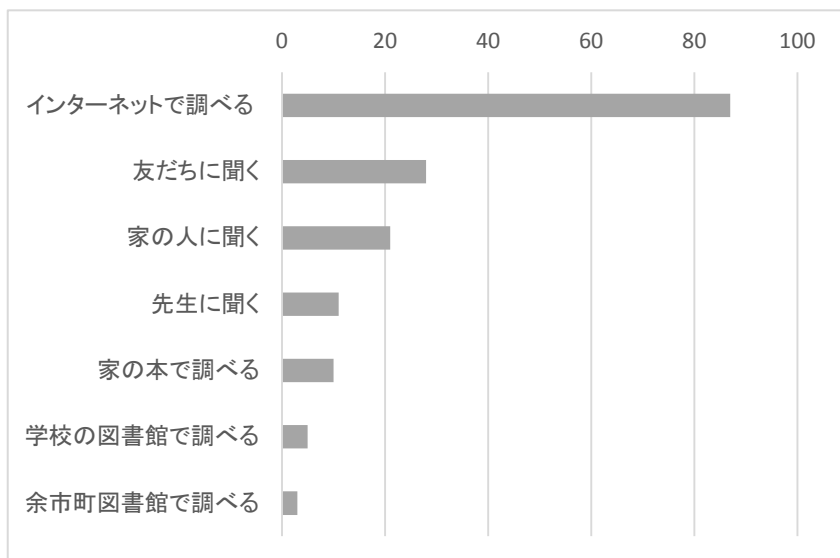
問 1 1 電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか



項目	人数	%
利用しない	50	54%
たまに利用する	22	24%
よく利用する	18	19%
無回答	3	3%

【電子書籍等の利用については、「よく利用する」（19%）と「たまに利用する」（24%）を合わせて43%で、半分近くの生徒が利用していることが分かる。】

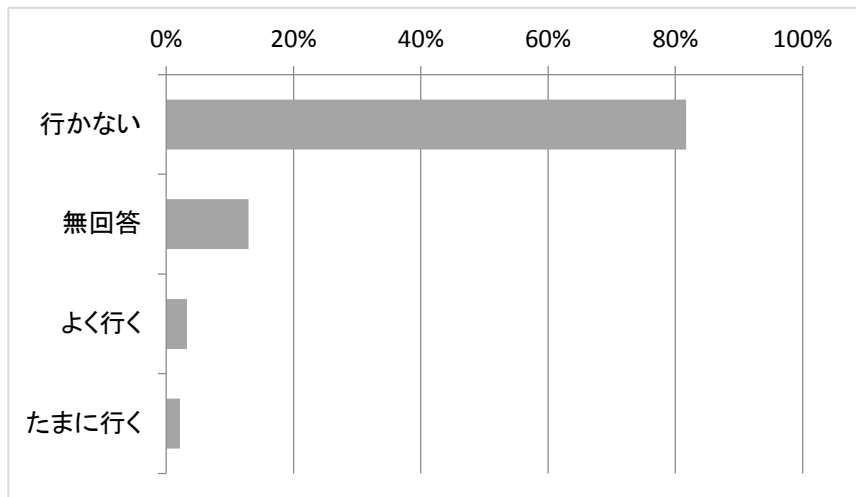
問 1 2 知りたいことがあるとき、どうやって調べますか（いくつでも）



項目	今回	%
インターネットで調べる	87	52%
友だちに聞く	28	17%
家の人に聞く	21	13%
先生に聞く	11	7%
家の本で調べる	10	6%
学校の図書館で調べる	5	3%
余市町図書館で調べる	3	2%

【疑問の解決法として、ほとんどの生徒がインターネットを活用していることが分かる。本を使って調べている生徒はかなり少ない。】

問 1 3 余市町図書館へはよく行きますか



項目	人数	%
行かない	76	82%
無回答	12	13%
よく行く	3	3%
たまに行く	2	2%

【余市町図書館については、「行かない」の回答がほとんどであり、学校の図書館に行かないと答えた生徒の割合とほぼ同じである。】

問 1 4 図書館にあったらいいと思うものはなんですか

(自由に書いてください)

<余市町図書館についての自由記述の一部>

- ・ 飲食をしながら本を読めるようにして欲しい
- ・ マンガを置いて欲しい
- ・ 新しい本やビデオをもっとおいて欲しい
- ・ 話してもいいスペースをもっと欲しい
- ・ W i - F i が欲しい
- ・ リラックスできるBGMをながして欲しい
- ・ 書店のような本の並び順にして欲しい

高校生からは、施設に関する要望が多くありました。「飲食ができるようにして欲しい」、「話せるスペースが欲しい」、「個室が欲しい」、「ビデオを見られるスペースをもっと欲しい」など、「学校帰りに気軽に立ち寄れる本がある場所」というような、「居場所としての図書館」が求められているように感じます。

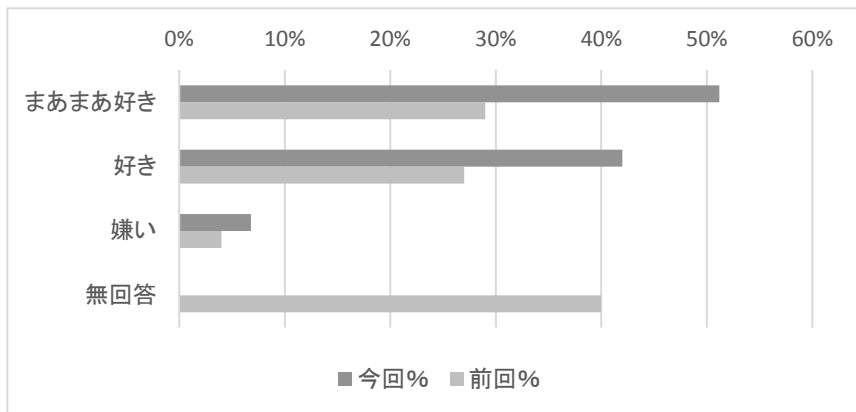
読書に関しては、マンガやDVDなど、気軽に楽しめるものを増やして欲しいという要望が多くありました。週刊少年ジャンプなどのマンガ雑誌を求める声もありました。また、「書店のような並び順にして欲しい」、「好きな本とマンガだけ置いて欲しい」などの意見もあり、書店より多くの本が並び中、自分の求める本を探すことに不安があるのではないかと考えられました。一方で、「もっと幅広い本が置いてあるといい」、「たくさん本を読みたい」など、読書に関心がある生徒も数名いることが分かりましたが、高校生は82%が余市町図書館を利用しないと答えているため、図書館のPR不足や、高校生に向けての展示や事業が足りていないことが分かりました。

# 余市町子どもの読書 アンケート調査（幼稚園・保育所・保育園保護者用）

※この保護者用アンケートは、381世帯のうち回収率66%でした。  
下記の割合は、回答された250世帯を100%とした数です。

3幼稚園・3保育所（園）	250
--------------	-----

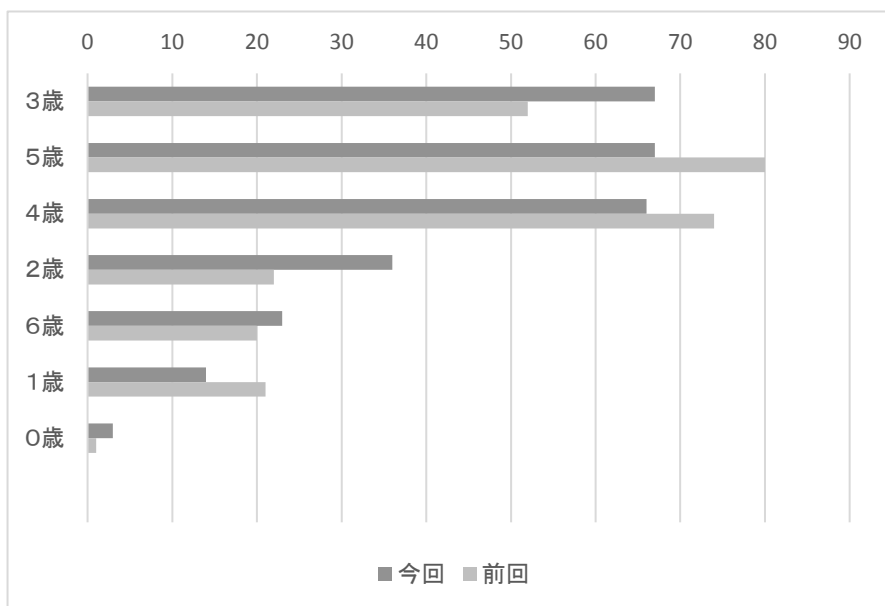
## 問1 あなたは本が好きですか



項目	人数	今回%	前回%
まあまあ好き	128	51%	29%
好き	105	42%	27%
嫌い	17	7%	4%
無回答	0	0%	40%

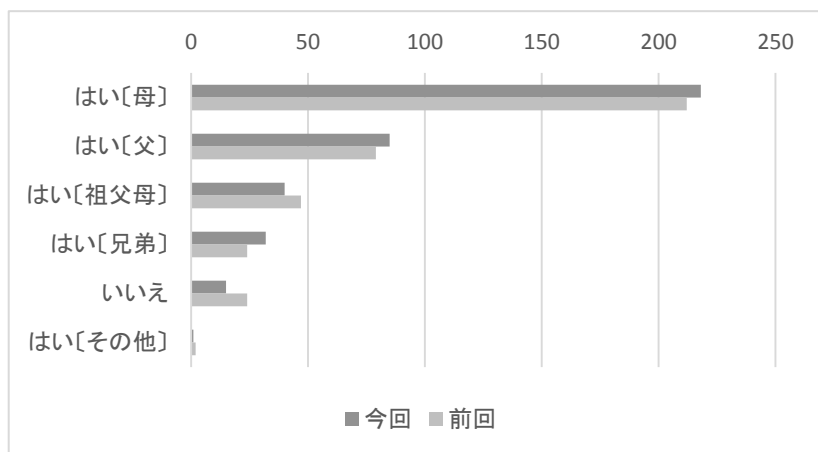
【回答者のうち多くの人（93%）が本は好きだと答えている。】

## 問2 幼稚園・保育所（園）に通っているお子さんは何歳ですか



項目	今回	前回
3歳	67	52
5歳	67	80
4歳	66	74
2歳	36	22
6歳	23	20
1歳	14	21
0歳	3	1

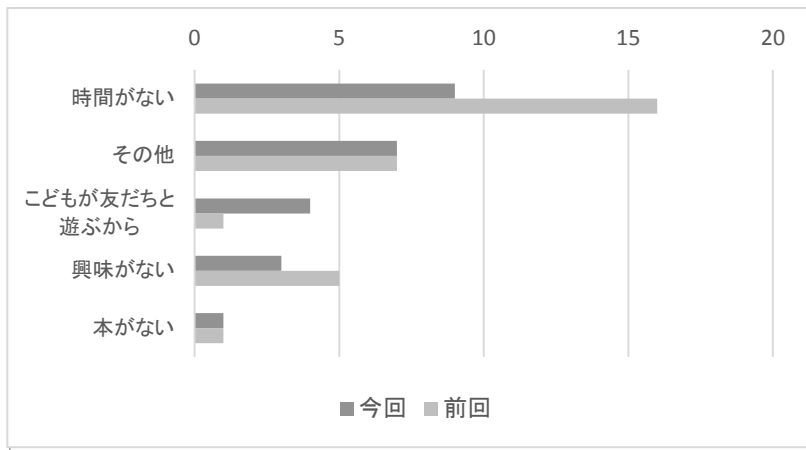
## 問3 お子さんに絵本などを読んでいますか。また、読むのは主に誰ですか（いくつでも）



項目	今回	前回
はい〔母〕	218	212
はい〔父〕	85	79
はい〔祖父母〕	40	47
はい〔兄弟〕	32	24
いいえ	15	24
はい〔その他〕	1	2

【本を読んで聞かせているのは主にお母さんの割合が高く、本に対する母親の意識が高いことが伺える。】

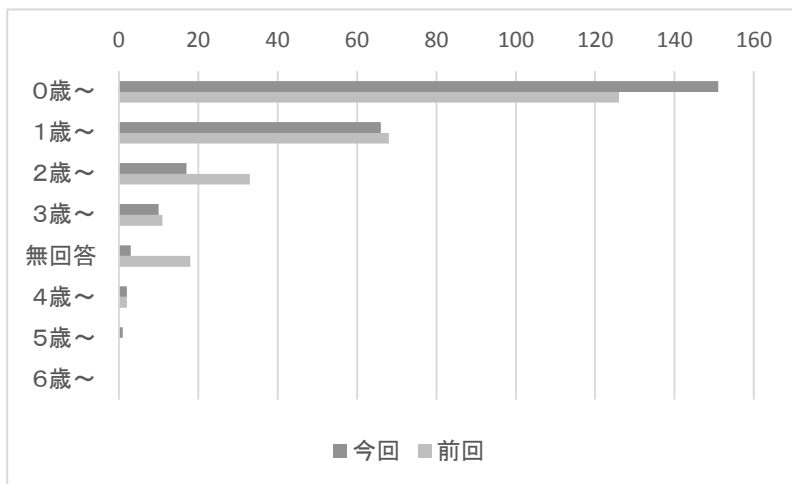
問4 問3で「いいえ」と答えた方にお聞きします。  
読み聞かせをしなかったのはどうしてですか（いくつでも）



項目	今回	前回
時間がない	9	16
その他	7	7
こどもが友だちと遊ぶから	4	1
興味がない	3	5
本がない	1	1

【読み聞かせをしないのは、忙しくて時間がないためという理由が多い。また、こどもが友だちと遊ぶからという理由があげられた。】

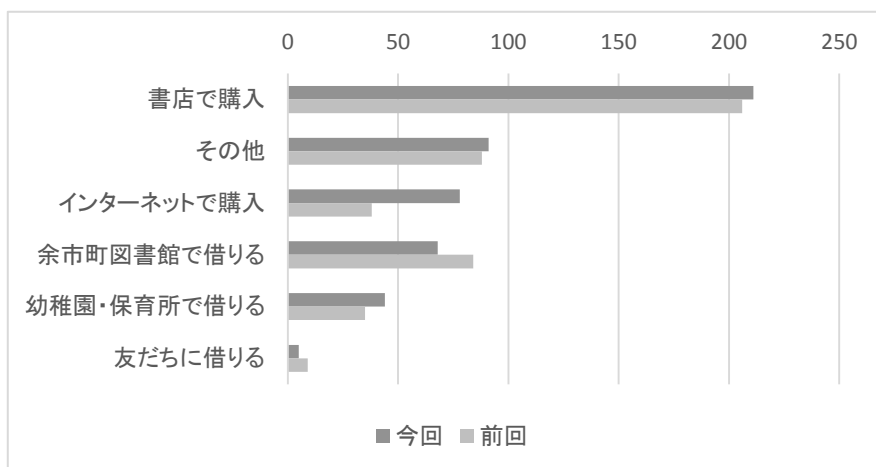
問5 お子さんが何歳くらいから読み聞かせをしましたか



項目	今回	前回
0歳～	151	126
1歳～	66	68
2歳～	17	33
3歳～	10	11
無回答	3	18
4歳～	2	2
5歳～	1	0
6歳～	0	0

【85%以上の親が1歳以前に読み聞かせを始めている。絵本は育児にかかせないものだと認識していると思われる。】

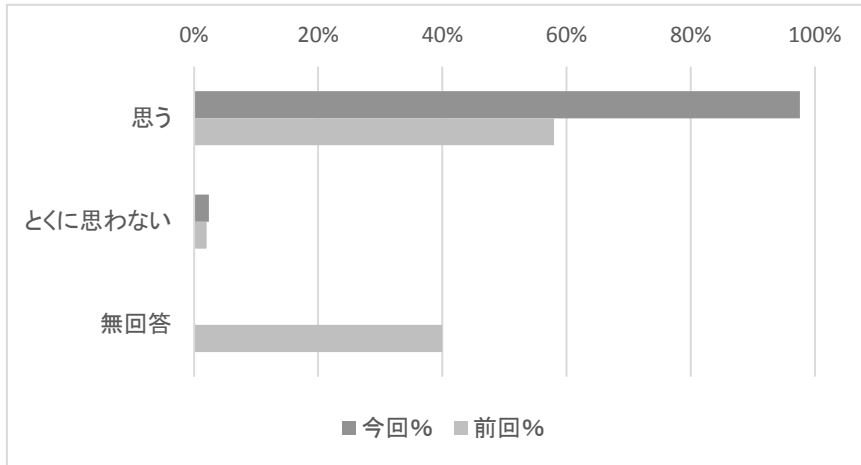
問6 読んであげる本はどのように入手していますか（いくつでも）



項目	今回	前回
書店で購入	211	206
その他	91	88
インターネットで購入	78	38
余市町図書館で借りる	68	84
幼稚園・保育所で借りる	44	35
友だちに借りる	5	9

【本の入手方法では、「書店で購入」が一番多い。「その他」として、お下がりの本やプレゼントでもらった本という回答があった。】

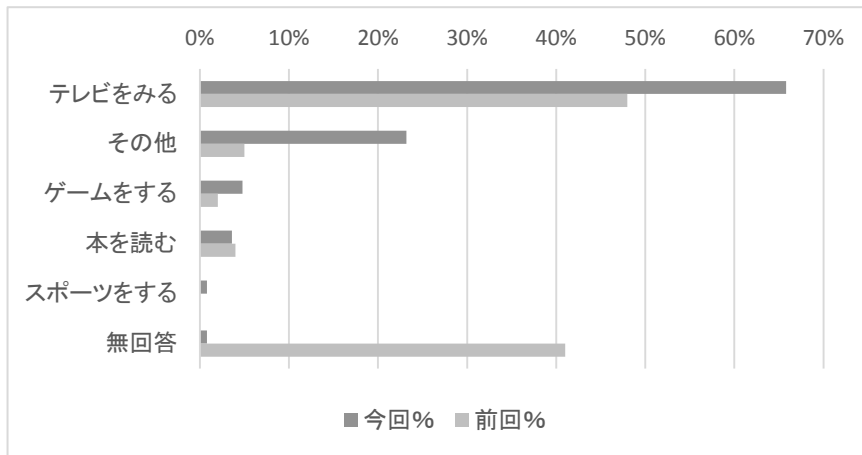
問7 幼いころから本に親しむことは大切なことだと思いますか



項目	人数	今回%	前回%
思う	244	98%	58%
とくに思わない	6	2%	2%
無回答	0	0%	40%

【ほとんど（98%）の保護者が小さいころから本に親しむことが大切だと思っている。】

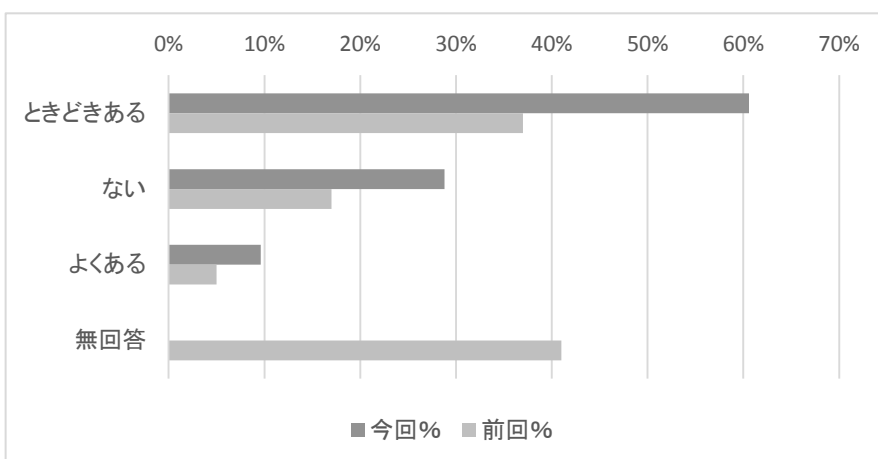
問8 夕食後、家族でいっしょに過ごす時間で一番多いのはどれですか



項目	人数	今回%	前回%
テレビをみる	167	66%	48%
その他	58	23%	5%
ゲームをする	12	5%	2%
本を読む	9	4%	4%
スポーツをする	2	1%	0%
無回答	2	1%	41%

【夕食後、家族の団欒では、「テレビをみる」が66%で圧倒的に多い。】

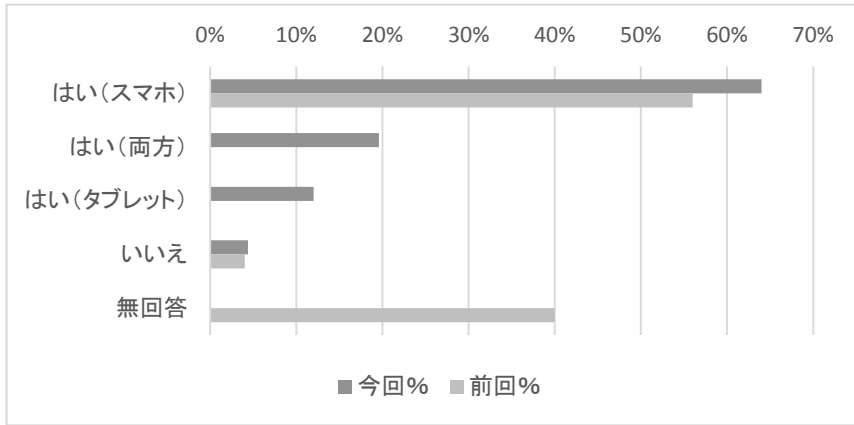
問9 家族で本について話題になることはありますか



項目	人数	今回%	前回%
ときどきある	154	61%	37%
ない	72	29%	17%
よくある	24	10%	5%
無回答	0	0%	41%

【家族で本を話題にするのは70%以上。本が会話の糸口になっていることが考えられる。家庭で本について話題にすることで、本に興味を持つきっかけになることもあるため、より家族の間で本が話題になるよう、展示などを充実させる。】

問10 スマートフォンやタブレットを持っていますか

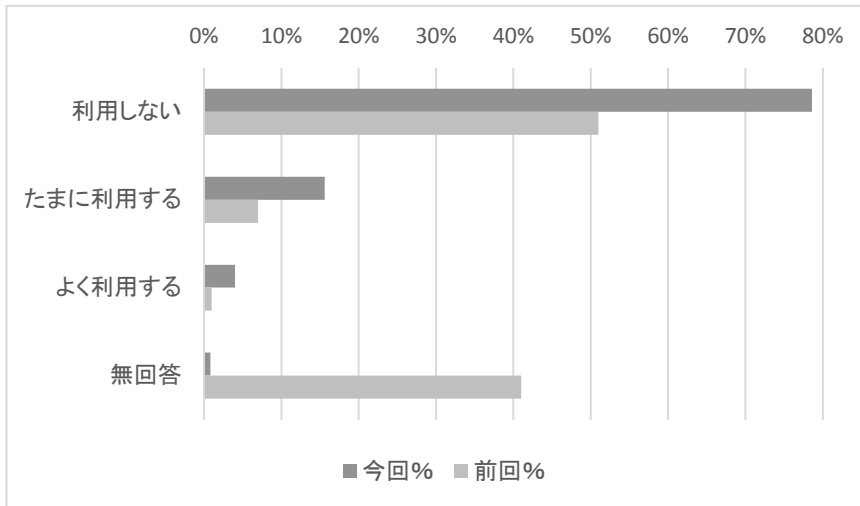


項目	人数	今回%	前回%
はい(スマホ)	160	64%	56%
はい(両方)	49	20%	-
はい(タブレット)	30	12%	-
いいえ	11	4%	4%
無回答	0	0	40%

※スマホの前回%は携帯とスマホの合計

【保護者の96%がスマホ・タブレット・両方を所持している。】

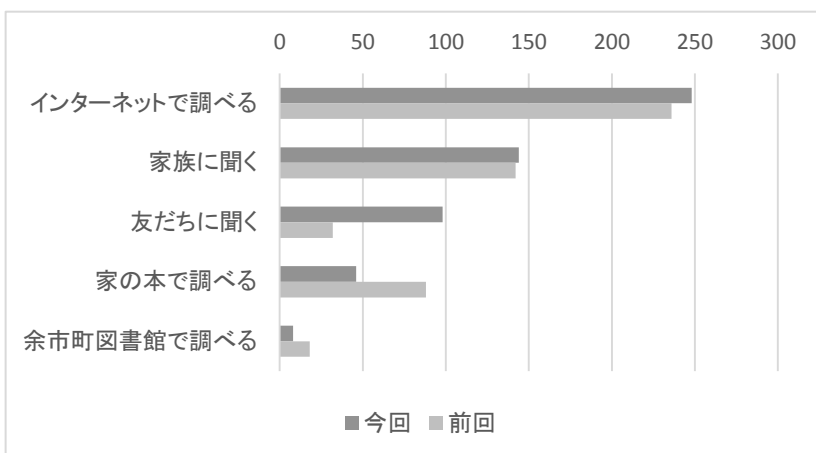
問11 電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか



項目	人数	今回%	前回%
利用しない	199	79%	51%
たまに利用する	39	16%	7%
よく利用する	10	4%	1%
無回答	2	1%	41%

【スマホ・タブレットの所持率が高い割には、電子書籍などの利用は20%程度と低い。電子書籍が、興味の対象でない人が多いことが分かる。】

問12 知りたいことがあるとき、どうやって調べますか (いくつでも)

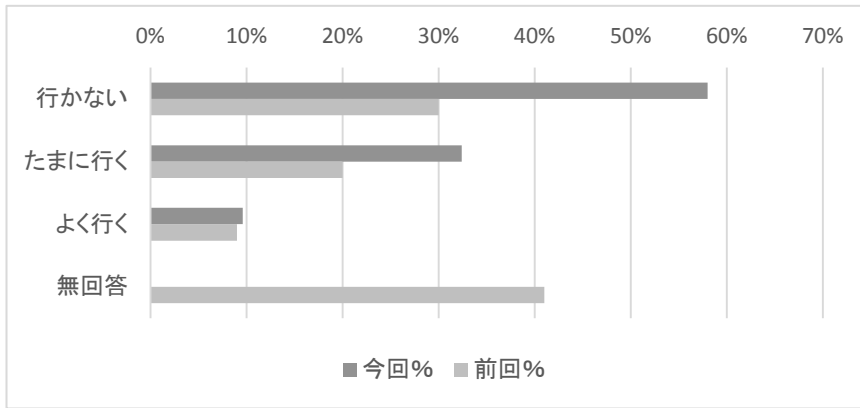


項目	今回	前回
インターネットで調べる	248	236
家族に聞く	144	142
友だちに聞く	98	32
家の本で調べる	46	88
余市町図書館で調べる	8	18

【保護者の多くは、疑問等をインターネットで調べている。また、家族に聞いたり、家の本で調べたり、家の中で解決している割合が高い。本で調べる方が手間や時間がかかるが、信頼性が高い情報が多いなどのメリットがあることを周知するべきだと考える。】



### 問 1 3 余市町図書館へはよく行きますか



項目	人数	今回%	前回%
行かない	145	58%	30%
たまに行く	81	32%	20%
よく行く	24	10%	9%
無回答	0	0%	41%

【調査に協力してもらった保護者の半分以上（58%）が図書館を利用していない。図書館では静かにしなければいけない、という従来の図書館像が足を遠ざけていることが自由記述欄から分かる。昨今の図書館では、「集い、学び、楽しむ場所」としての機能も備えていることと、赤ちゃんタイム等の周知を充実させるべきだと考える。】

### 問 1 4 図書館にあったらいいと思うものはなんですか

（自由に書いてください）

<余市町図書館についての自由記述の一部>

- ・インターネットから、貸出中でなくても予約できる仕組みが欲しい
- ・幼い子と一緒に遊べるキッズスペースが欲しい
- ・座って読めるスペースを増やして欲しい
- ・授乳室が欲しい
- ・児童室の電気の音が気になる
- ・静かにしなくても良い場所が欲しい

保育所・幼稚園（園）の保護者からは多様な要望・意見がだされましたが、大きく3つに分類できました。

1つ目は、施設面での要望です。「カフェコーナーを作って欲しい」、「冬が非常に寒いので、ストーブを置いて欲しい」、などの意見がありました。なかでも特に多かったのは、「子ども専用のスペースを作って欲しい」という意見で、静かにしなくても良い、工作やお絵かきができる遊び場のような場所を求めていることが分かりました。図書館は「静かにしなければいけない」という従来の図書館像が定着しているため、小さな子どもが一緒だと、専用のスペースがないと利用しづらいと感じているようです。

2つ目は、蔵書に関する要望です。「新刊や話題本をもっと入れて欲しい」、「工作やおりがみの本が欲しい」、など、リクエスト制度を活用してもらえれば解決できる意見のほか、キャラクターの本は、作者別でなくキャラクターごとにまとめて欲しいなど、本の並べ方に関する意見もありました。利用者がより利用しやすくするために、検討が必要です。

3つ目に、図書館で行う事業についての要望です。「絵本作家が来たイベントをまた開催して欲しい」という要望の他、読んだ本の履歴が記帳できる「読書通帳」を導入して欲しいという意見が複数ありました。

今回のアンケート結果を踏まえ、親が気兼ねなく利用でき、子どもも楽しめる場を提供することが必要であることが分かりました。寛容で親しみが持てる、「居場所としての図書館」づくりが必要と考えます。

「第2次余市町子どもの読書活動推進計画」にかかる読書アンケート調査

※アンケートにご協力ください!

問1 「余市町子どもの読書活動推進計画」があることを知っていますか

1
---

- ① はい                      ② いいえ

問2 問1で「① はい」と答えた学校に伺います。

「余市町子どもの読書活動推進計画」があることで、現場に変化はありましたか。ありましたらお聞かせください

--

問3 貴校では、読書活動は盛んに行われていますか

3
---

- ① 大変盛んに実施                      ② 盛んに実施  
③ あまり盛んではない                      ④ 盛んではない

問4 貴校ではどのような読書活動を行っていますか (いくつでも)

4
4
4
4
4
4

- ① 全校一斉読書                      ② 読み聞かせ                      ③ おはなし会  
④ 読書週間・月間の開催                      ⑤ 読書に係るイベントの実施  
⑥ 読書感想文・感想画の取組み

問5 問4で「① 全校一斉読書」と答えた学校に伺います。

5
---

全校一斉読書はどの時間帯に行っていますか

- ① 始業前(朝の読書)                      ② 昼休み  
③ その他 (                      )

問6 問4で「① 全校一斉読書」を選んでいない学校に伺います。

6
---

全校一斉読書をしない理由は何ですか

- ① 時間が確保できないから                      ② 全校一斉読書の必要がないから  
③ その他 (                      )

問7 貴校の図書館はよく利用されていますか

7
---

- ① よく利用されている                      ② 利用されている  
③ あまり利用されていない                      ④ 利用されていない

※裏面もあります

問8 問7で「① よく利用されている」「② 利用されている」と答えた学校に伺います。

利用されている理由は何だと思えますか (いくつでも)

- ① 本がたくさんあるから ② 学校図書館が利用しやすいから  
③ 友だち同士で誘い合っているから ④ 教職員が勧めるから

8
8
8
8

問9 問7で「③ あまり利用されていない」「④ 利用されていない」と答えた学校に伺います

利用されない理由は何だと思えますか (いくつでも)

- ① 読みたい本がないから ② 学校図書館が利用しづらいから  
③ 学校図書館が開いていないから ④ その他 ( )

9
9
9
9

問10 学校図書館の利用を増やすためにしていることがあれば教えてください

(例) おすすめポップづくり、図書館内の飾り付け など

問11 余市町図書館の団体貸出を利用したことがありますか

- ① ある ② ない

11
----

問12 問11で「② ない」を選んだ学校に伺います

利用しないのはなぜですか (いくつでも)

- ① 間に合っているから ② 本の管理に不安があるから  
③ 忙しいから ④ 団体貸出の制度を知らなかったから  
⑤ その他 ( )

12
12
12
12
12

問13 図書館に対する要望がありましたらお聞かせください

(自由にお書きください)

「第2次余市町子どもの読書活動推進計画」にかかる読書アンケート調査

※アンケートにご協力ください!

問1 「余市町子どもの読書活動推進計画」があることを知っていますか

1
---

- ① はい                      ② いいえ

問2 問1で「① はい」と答えた施設に伺います。

「余市町子どもの読書活動推進計画」があることで、現場に変化はありましたか。ありましたらお聞かせください

--

問3 貴施設内に、図書コーナーや本棚を備えた場所がありますか

3
---

- ① ある                      ② ない

問4 問3で「① ある」と答えた施設に伺います。

4
---

施設内の図書は幼児や保護者に貸出していますか

- ① 貸出する                      ② 貸出しない

問5 現在、どのような読書活動をされていますか（いくつでも）

5
5
5
5

- ① 絵本や紙芝居などの読み聞かせの実施  
② 講演会や研修会の開催や案内の実施  
③ 本の紹介や斡旋  
④ その他（                      ）

問6 問5で「① 絵本や紙芝居などの読み聞かせの実施」を選んだ施設に伺います。読み聞かせは誰がしていますか（いくつでも）

6
6
6
6

- ① 先生や保育士                      ② 保護者                      ③ ボランティア  
④ その他（                      ）

問7 問5で「①絵本や紙芝居などの読み聞かせの実施」を選んだ施設に伺います。読み聞かせの頻度はどれくらいですか

7
---

- ① 毎日                      ② 2、3日に一回程度  
③ 週に一回程度                      ④ 月に数回程度

※裏面もあります

問8 読み聞かせをすることは、大切だと思いますか

8
---

- ① 非常に大切だと思う      ② 大切だと思う  
③ 大切だと思わない      ④ わからない

問9 読み聞かせに使う本や紙芝居はどのように手に入れていますか  
(いくつでも)

9
9
9
9
9

- ① 自分のところにあるものを使う      ② 購入する  
③ 余市町図書館から借りる      ④ 職員の私物を使う  
⑤ その他 ( )

問10 余市町図書館の団体貸出を利用したことがありますか

10
----

- ① ある      ② ない

問11 問10で「② ない」を選んだ施設に伺います。  
利用しないのはなぜですか (いくつでも)

11
11
11
11
11

- ① 間に合っているから      ② 本の管理に不安があるから  
③ 忙しいから      ④ 団体貸出の制度を知らなかったから  
⑤ その他 ( )

問12 絵本の読み聞かせ以外で実施していることがありましたら  
お聞かせください (例) パネルシアターなど

--

問13 図書館に対する要望がありましたらお聞かせください  
(自由にお書きください)

--

## 【現場担当者アンケート】

※各学校、保育所（園）・幼稚園の担当者に対する聞き取り調査を実施しました。

以下は、町内小学校4校、中学校3校、高校2校及び保育所（園）3所・幼稚園3園の結果です。

### ●小学校 4校、中学校 3校、高校 2校

問1、問2 「余市町子どもの読書活動推進計画があることを知っているか」という問いには、4校が「知っている」と答えた。しかし、「現場に変化があったか」という問いでは、4校すべてが変化は無かったと答えている。

問3 「読書活動は盛んに行われているか」という問いには、6校が盛んに行われていると答えている。4校が小学校。2校が中学校。5年前と比較し2校増加した。

問4 「どのような読書活動が行われているか」という問いでは、「全校一斉読書」が7校、教員やボランティアによる「読み聞かせ」が4校（すべて小学校）、「おはなし会」が5校、読書週間の開催が5校、読書イベントが4校（すべて小学校）、読書感想文、感想画の取組みが8校だった。小学校は読書活動に積極的に取り組んでいるが、中・高生になると読書イベントが少なくなる傾向にある。

問5 「全校一斉読書」を行っている」と答えた7校に、どの時間帯に行っているかを聞くと、始業前の朝読書を行っている」と答えている。

問6 「全校一斉読書」を行っていない2校に理由を聞くと、「時間が確保されていない」、「論議にあがっていない」との理由の他に、「朝読書の代わりに、上級生が下級生に読み聞かせをする時間を作っている」という学校もあった。

問7 「学校図書館はよく利用されているか」という問いでは、小学校はよく利用されている」と回答し、中学校・高校はあまり利用されていない」と答えた学校がほとんどだった。

問8 「利用されている」と答えた学校の理由では、「子どもたちのリクエストする本を入れることができている」、「教職員が勧めているから」、「かざりつけなどが充実していて、利用しやすい図書室だから」と答えている。

問9 「利用されていない」と答えた学校の理由では、「読書や本に関心がない」、「今の生徒は調べ物があってもネットで済んでしまうため、図書館の必要性を感じていない」、「読みたい本が図書室にない」などがあげられた。

問10 「学校図書館の利用を増やす取組み」として、小学校では、「新刊が入ったら図書館発行のお便りで知らせる」、「季節に合わせた特別展示を行う」、「本を借りるごとにスタンプカードがたまり、いっぱいになったら手作りの葉がもらえるイベントを定期的に行っている」との回答があり、中学校では、「図書委員がPOPを作成し、本と合わせて展示する」、「図書委員で利用促進のポスターを作成する」など、図書委員会を中心とした取組みが行われている。高校では、「選本会議に学生も参加する」、「教員がPOPを作成する」などの回答があった。

問11、問12 「団体貸出を利用したことがあるか」という問いでは、小学校はすべて利用したことがあり、中学校は1校、高校は利用したことがないという結果になった。「利用しないのはなぜ」という問いでは、すべての学校が「団体貸出の制

度を知らなかったから」と答えている。

問13 図書館に対する要望としては、小学校では「団体貸出とは別に、授業で扱う内容に特化した本の貸出を行って欲しい」、「学校で司書による読み聞かせを行って欲しい」、「ビブリオバトル※13などのイベントを学校で開催して欲しい」、中学校では、「読書に興味がない子どもたちへ向けてイベントを行って欲しい」、「学校図書館の整理を手伝って欲しい」、高校では「保育系の進路を希望している子どもたちに向けて読み聞かせの講義を行って欲しい」との回答があった。

自由記述欄には、活字に触れる機会が少ないことや、本に興味がある子が減少しているとの記述の他、最近の子どもたちは「語彙力が少なく、読解力が低い」傾向にあると感じているとの回答もあった。

※13 ビブリオバトル：知的書評合戦。ルールとしては、①発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。②順番に一人5分間で本を紹介する。③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。④全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とするもの。

## ●保育所（園）3所・幼稚園3園

問1、問2 「余市町子どもの読書活動推進計画があることを知っているか」という問いには、4施設が知っていると言った。しかし、現場に変化があったか」という問いでは、4施設すべてが変化はなかったと言っている。

問3、問4 「施設内に図書コーナーや本棚を備えた場所があるか」という問いには、すべての施設が「ある」と言った。「施設内の図書は幼児や保護者に貸出しをしているか」という問いには、施設内でのみの利用がほとんどで、1施設のみ貸出しも行っていると言っている。

問5 「現在どのような読書活動をしているか」の問いには、すべての施設で「絵本や紙芝居などの読み聞かせの実施」と言え、次いで「本の紹介や斡旋」という言えが多かった。講演会や研修会の開催や案内の実施と言った施設では、先生の研修会に絵本に関する研修が組み込まれているようだ。

問6 「読み聞かせは誰がしているか」という問いには、すべての施設が「先生や保育士」と言っている。また、「ボランティア」と言っている施設がいくつかあり、交通安全教室などで、町内のボランティア団体が読み聞かせをしていると言っている。

問7 「読み聞かせの頻度」の問いには、全施設が「毎日」と言っている。

問8 「読み聞かせについて大切か」という問いには、全施設が「非常に大切だと思う」と言っている。

問9 「読み聞かせに使う本や紙芝居はどのように手に入れていますか」という問いには、すべての施設で「自分の施設にあるものを使う」と言った。他に、予算が余れば「購入する」、「職員の私物を使う」と言った。「余市町図書館から借りる」と言った施設は、3施設であった。

問10、問11 「団体貸出しを利用したことがあるか」という問いには、4施設が利用したことがないと言った。「利用しないのはなぜ」という問いでは、すべての施設で「団体貸出しの制度を知らなかったから」と言っている。

問12 「絵本の読み聞かせ以外で実施していることがありましたらお聞かせください」という問いには、「パネルシアター」、「ペープサート」、「エプロンシアター※14」、「紙コップシアター」、「手品」、「手袋人形」などを実施していると言っている。また、施設の図書コーナーに、クラスごとの年齢にあわせた本や、季節ごとの話題本を展示するなど、工夫を凝らした本棚を意識しているようだ。

問13 余市町図書館に対する要望として、以下の3つの意見が出た。

①読み聞かせに来て欲しい

②団体貸出をお願いしたい

③電子書籍を器用にみている子どもが増えているようだが、何度も同じ本のお気に入りのページをめくる、同じページをじっくり見るなど、アナログ本ならではの楽しみ方を、情緒の安定の面からとても大切であることなどを図書館から若い親世代に発信して欲しい。

※14 エプロンシアター:舞台に見立てた胸あて式エプロンに物語の背景とマジックテープを縫いつけ、演じ手がポケットから人形を取り出してエプロンに貼り付けながら物語を演じる人形劇。



## パブリックコメントで寄せられた意見等に対する考え方

### 【件名】第2次余市町子どもの読書活動推進計画（素案）

※「ご意見等に対する余市町の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

区分	意見等の反映状況
A	ご意見を受けて計画（素案）を修正したもの
B	計画（素案）とご意見等の趣旨が同様であるもの
C	計画（素案）を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	計画（素案）の運用にあたって参考となる情報提供
E	計画（素案）に対するご質問等

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方	区分
①電子図書館に関しては、我国では著作権法制度の対応が流動的、途上であるため、既に検討されているかも知れませんが、当面は地域資料の整備や独自のコンテンツなどに焦点を当てる方が現実的と考えます。	地域のデジタル資料の整備はもちろん重要ですが、非来館者へのサービスとして、一般的な電子図書についても急務と考えます。電子図書館の導入により、教育環境と読書環境の整備を行い、いつでもどこでも利用可能なサービスを提供するべきと考えます。	D
園（乳幼児）については、ブックスタートを着実に進められている様子で、フォローアップとして園（乳幼児）の読書活動まで効果的に構築していくことができると期待します。	ご意見のとおり、乳幼児期からの本との触れあいの時間は今後の読書習慣に繋がっていく大事な取組ですので、継続して実施していきたいと考えております。	B

<p>学校については、2校に司書教諭を配置し、併せてボランティアとの連携や支援を進めており、連携が課題と認識されているようです。現在の学校図書館法に大きな変更がない限り、将来的には学校司書の配置と整備が求められます。学校司書は、現行法制では任意規定ですので、①配置しない、②ボランティア、③非正規職員配置、④正職員配置、⑤公共図書館職員の5つの類型が見られます。余市町は、①+②の方針のようです。③は、学校司書の法制度化により増加しています。④は、高校など都道府県立の学校図書館に比較的多く見られます。⑤は、法制度化前の時期に公共図書館が学校図書館の整備に関わった自治体に見られます。余市町は、将来的に③、④、⑤のいずれかに進むとしても、素案にあるように地域住民やボランティアの皆さんの理解、協力、連携が必要であることは変わりません。また、素案にありますとおり、相談・調整・養成などの項目は大事になるので組織化や主要な施策にする必要があります。</p>	<p>ご意見のとおり、学校司書はとても重要な役割と認識しておりますが、現状で予算化は難しいため、図書館職員や地域ボランティアが連携し、学校との情報交換を行いながら、できる限り対応していきたいと考えております。</p>	<p>C</p>
<p>学校図書館が機能すると、ICTを活用しながら「主体的・対話的で深い学び」を学習活動と読書活動を相互作用的にまで引き上げ、「カリキュラム・マネジメント」と「社会に開かれた教育課程」が広がると考えます。このことは、学校を卒業した子どもが社会に出て、公共図書館のリテラシーと親和性、活用する未来を創るものです。</p>	<p>ご意見のとおり、学校図書館は子どもたちが、たくさんの本に触れることが出来る大事な場所であり、そこで読んだり調べたりした経験が、大人になってから、図書館の利用につながると思います。学校図書館をよりよく機能していくためには、図書館のみならず、PTAや地域住民の協力が必要と考えますので、ボランティアの育成・支援を行ってまいります。</p>	<p>D</p>

<p>②第3章 3 学校</p> <p>「全小学校でのブックイベント～高まった」とある点について</p> <p>ここ数年のブックイベントの取組は、たいへん効果的だと思います。</p> <p>いつもより気軽に本を手にとり、見つけた本をかかえて、集中して読み始める姿はなかなか良い景色です。</p> <p>本を好きな子はもちろん、ふだん、あまり熱心ではない子にも刺激になっています。</p> <p>現在は年1回のようなのですが、年に2回、または学期ごとに1回…と回数を増やしていく方向でご検討下さい。</p> <p>準備その他いろいろ大変でしょうが、そんな時こそ、ボランティア活用の良い機会になるかと思います。</p>	<p>ご意見のとおり、ブックイベントは子どもたちが本を身近に感じられる重要な事業だと感じております。現在は、学校からの要望により、年に1回～2回行っておりますが、回数については、要望があれば増やしていくことも可能です。</p>	<p>C</p>
<p>第3章 4 図書館</p> <p>「アニメーションの研修会」や「絵本作家を招いてのワークショップ」に参加経験のある者として、ひと言。</p> <p>どれも、たいへん貴重な機会であり、大いに満足する内容でした。今後も是非続けてほしいです。また参加することを楽しみにしています。</p> <p>今とてもはまっている「ヨシタケシンスケ」氏が余市に来る…なんて、無理でしょうか。</p>	<p>ご意見にあります、研修会やワークショップは、推進計画に基づき、今後も行っていきたいと考えております。ヨシタケシンスケ氏を、とのご要望には、現在大変人気な作家さんですので、お応えできかねるかと思いますが、出来る限り皆様にとって興味深い内容のワークショップを開催できるよう、考えてまいります。</p>	<p>B</p>

<p>第4章 2 子どもの読書活動の推進に向けた働きかけについて</p> <p>推進項目（１）～（３）のすべてについて、大いに進めるべきだと考えます。以前、「図書館友の会」のような組織があると聞いたように思いますが、実態が見えず、活動の様子がわかりません。（ブックママとの連携は耳にしたことがあります。）</p> <p>コロナ禍の今しばらくは実現も難しいでしょうが、例えば、“図書館コンシェルジュ”のような存在が、誰の目にも見える形で活動するような余地があるのではないかと思います。（イメージとしては、“病院案内ボランティア”）</p> <p>全世代の心地よいスペースとしての図書館（ハード）・来館者と本をつなぐボランティア（ソフト）両方の充実をめざしてほしいと思います。</p>	<p>有志による「図書館友の会」がありましたが、長い休会のうえ、解散しております。また「図書館コンシェルジュ」については、現状、司書が中心となっておすめの図書や、館内の案内などを行っております。推進項目のとおり、ボランティアの育成・支援を目ざして、協力体制を築いていきたいと考えております。</p>	<p>C</p>
<p>資料 P 4 5 の末尾</p> <p>最近の子どもたちは「語彙力が少なく、読解力が低い」傾向</p> <p>P 4 6 の末尾</p> <p>何度も同じ本のお気に入りの～発信してほしい の2点について</p> <p>どちらにも、全く同感です。</p> <p>低学年の子どもたちと接していると、幼稚園・保育園それぞれで、たくさん読み聞かせをしてもらっているはずなのに、その割に言葉の力や感性が十分には育っていない印象です。</p> <p>①その子が心を許した人が、②その子のためだけに、③その子のペースに合わせて、④直に、読み聞かせするという形での経験が、むしろ少なくなっているからではないか、と感じています。</p> <p>例えば、児童書の配架を変えて、“小上がり”のような3畳くらいのスペースがあったら、膝に乗せての読み聞かせも出来るでしょうか。</p>	<p>子どもたちの語彙力や読解力を高めていくためにも、子どもが活字と関わる機会を増やす取組みが必要と考えます。子どもにかかわるすべての人と図書館が連携し、様々な取組みを行っていききたいと考えております。</p> <p>なお、膝に乗せての読み聞かせについては、児童書の配架を変えて、場所を確保することは難しいですが、お話しコーナーで行うことが出来ますので、ご利用いただきたいと思います。</p>	<p>D</p>

<p>③ボランティア団体とのネットワーク化、連携と協力という言葉がでてきますが、町内のボランティア団体の情報が集まる社会福祉協議会などと情報交換をするとよいと思います。福祉関係のボランティア団体でも本とのつながりを希望したり今の図書館がやっていない本と関係するボランティア活動ができると思います。</p>	<p>計画（素案）に基づいて、推進項目を進めながら、ボランティア団体とのネットワーク化を進めていきたいと思います。</p>	<p>C</p>
<p>④計画の目的として、第1次の計画による取組みを実施し、成果の分析、課題を受けとなっているが、その分析の良し悪しも含めた結果がどうだったのかが示されていないのは残念です。</p>	<p>第1次では31項目の具体的な取組みを計画し、そのうち26項目を実施しましたが、おおむね良好と判断しております。未実施の事業他については、新たに内容を見直した上で第2次計画に盛り込んでおります。</p>	<p>D</p>
<p>この計画の対象が、0歳から概ね18歳であるが、高校生世代への活字離れはどこの図書館も課題としているが、今回の計画のどの取組みが該当するのですか。</p>	<p>推進項目の中に盛り込まれているように、学校からの要望による出前図書館やインターンシップをはじめ、図書委員会との交流が該当すると考えております。</p>	<p>E</p>
<p>コロナにより、直接本を手にとってじっくり選ぶことがとても難しく、寂しく感じていますが、今後は電子図書館が益々増えていくと思いますが、どのように増えていくのですか。児童書は多く購入する予定はあるのですか。</p>	<p>紙の本と同様に、司書が年次計画に基づき選本、購入いたします。児童書に関しても、他ジャンルとのバランスを考え、計画のとおり購入していく予定です。なお、電子図書は2年間で使用する権利がなくなるものもあり、大きく増えていかない場合も考えられます</p>	<p>E</p>
<p>ブックスタート事業の充実とは、具体的にどのような事業内容が充実されるのですか。</p>	<p>参加された方にお渡しする資料（絵本リストなど）を充実していきたいと考えております。</p>	<p>E</p>
<p>具体的な取組み、3の推進目標で「時代に即したサービスの提供が求められています」と記載されていますが、推進項目のどの事業が該当し、具体的な内容を知りたいです。</p>	<p>推進項目にある、「ホームページ、SNSを活用した最新情報の提供」が該当します。スマートフォンなどの電子機器を所持している子供が増加しているため、電子図書館やSNSを活用し、図書館の最新情報を提供したいと考えております。</p>	<p>E</p>
<p>第1次計画と比較して見て、新しい取組みが多く載っており、努力を感じます。また、実際に5年間ですべてを取組むことは大変だと思いますが、職員の方々の頑張りに期待します。</p>	<p>計画（素案）に基づいて、推進項目を進めながら、読書活動の推進に取り組んでいきたいと考えます。</p>	<p>B</p>

## 諮問書

余 教 社 号

令和2年12月29日

余市町社会教育委員の会議

委員長 金 澤 治 様

余市町教育委員会

教育長 前 坂 伸 也

第2次余市町子どもの読書活動推進計画案（令和3年度～令和7年度）  
について（諮問）

社会教育法第17条第1項の規定（社会教育委員の職務の内、「社会教育に関する諸計画を立案すること」）に基づき、別添の第2次余市町子どもの読書活動推進計画案について貴会の意見を求めます。

# 答申書

余 社 委 第 1 号

令和 3年 1 月 21日

余市町教育委員会

教育長 前 坂 伸 也 様

余市町社会教育委員の会議

委員長 金 澤 治

## 第2次余市町子どもの読書活動推進計画案について（答申）

令和2年12月29日付け余教社号をもって諮問のありました、第2次余市町子どもの読書活動推進計画案について慎重に審議した結果、適当であると認め、下記の意見を付して答申します。

### 記

- 1 第2次余市町子どもの読書活動推進計画において掲げられた目標を着実に具現化するよう鋭意努力していただきたい。
- 2 本計画に関する趣旨や内容について分かりやすく町民に周知し理解を求め、子ども達が読書に親しみ、良い読書習慣が身に付くための読書活動の推進に努めていただきたい。

## 第2次余市町子どもの読書活動推進計画策定経過

年 月 日	策 定 経 過
令和2年 4月28日	教育委員会4月定例会に計画を策定する議案を提出
5月20日	余市町議会総務文教常任委員会に計画を策定する旨概要、スケジュール報告
6月23日	部長会議にかけて各担当部署への協力依頼
6月26日	教育委員会6月定例会に読書アンケート調査内容協議、スケジュール報告
7月2日	庁舎内第1回策定作業部会開催、計画の概要とスケジュール協議
7月3日	余市町図書館協議会に計画の概要とスケジュール説明、協力依頼
7月20日	余市町読書体験・読書感想文コンクール実行委員会に計画の策定概要説明と意見聴取協力依頼
7月31日	社会教育委員会の会議に計画策定の諮問と答申の説明、協力依頼
7月20日～ 9月4日	町内小中高校及び保育所(園)・幼稚園へ読書アンケート調査実施
8月5日～ 9月1日	町内小中高校及び保育所(園)・幼稚園の現場担当者に聞き取り調査実施
9月23日	庁舎内第2回策定作業部会書面開催、アンケート集計結果と計画素案作成
9月25日	教育委員会9月定例会に計画素案を報告、承認
10月13日	臨時図書館協議会に素案報告、意見聴取
10月16日	読書体験・読書感想文コンクール実行委員会に素案説明、意見聴取
10月19日	第14回余市町議会総務文教常任委員会に素案報告、パブリックコメント実施予定報告
11月26日～ 12月26日	パブリックコメント実施
12月	庁舎内第3回策定作業部会にパブリックコメント結果報告と計画案作成
12月23日	教育委員会12月定例会にパブリックコメント結果報告、計画案決定及び答申書の承認
12月29日	教育委員会委員長から社会教育委員長へ諮問 第3回社会教育委員の会議において計画案の協議、答申書の承認
令和3年 1月21日	社会教育委員長から教育委員会委員長へ答申
1月22日	教育委員会1月定例会において、答申書報告及び計画の決定
1月27日	余市町議会総務文教常任委員会にパブリックコメント結果と計画を報告
2月24日	余市町図書館協議会に計画を報告
3月	庁舎内作業部会に計画を報告、第4回社会教育委員の会議に計画を報告 パブリックコメント結果及び計画、町民及び関係機関へ周知





## 余市町子どもの読書活動推進計画

令和3年3月

発行 余市町教育委員会  
北海道余市郡余市町朝日町26番地  
TEL 0135-21-2138

編集 余市町教育委員会  
社会教育課 余市町図書館  
北海道余市郡余市町入舟町413番地  
TEL 0135-22-6141